【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2020年12月10日提出
【計算期間】	第29特定期間(自 2020年3月11日至 2020年9月10日)
【ファンド名】	３資産バランスオープンアルファ
【発行者名】	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 菱田　賀夫
【本店の所在の場所】	東京都港区芝公園一丁目１番１号
【事務連絡者氏名】	投資業務推進部長　民野　誠
【連絡場所】	東京都港区芝公園一丁目１番１号
【電話番号】	03-6453-3610
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第１【ファンドの状況】

１【ファンドの性格】

（１）【ファンドの目的及び基本的性格】

＜ファンドの目的＞

当ファンドは、毎決算時の収益分配と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

＜信託金限度額＞

上限　2,500億円

ただし、委託会社は受託会社と合意の上、限度額を変更することができます。

＜基本的性格＞

一般社団法人投資信託協会が定める分類方法における、当ファンドの商品分類及び属性区分は下記の通りです。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	ＭＭＦ	インデックス型
追加型	海外	債券	ＭＲＦ	特殊型
	内外	不動産投信	ＥＴＦ	
		その他資産（　　）		
		資産複合		

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	対象インデックス	特殊型

株式 一般 大型株 中小型株 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 （　　） 不動産投信 その他資産 （投資信託証券（資産複合（株式、債券、不動産投信）資産配分固定型）） 資産複合 （　　） 資産配分固定型 資産配分変更型	年1回 年2回 年4回 年6回 （隔月） 年12回 （毎月） 日々 その他 （　　）	グローバル（日本を含む） 日本 北米 欧州 アジア オセアニア 中南米 アフリカ 中近東（中東） エマージング	ファミリーファンド ファンド・オブ・ファンズ	あり （　　） なし	日経225 ＴＯＰＩＸ その他 （　　）	ブル・ベア型 条件付運用型 ロング・ショート型/絶対収益追求型 その他 （　　）

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

※属性区分表に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

上記商品分類表及び属性区分表に係る用語の定義は下記の通りです。
なお、一般社団法人投資信託協会のホームページ（http://www.toushin.or.jp/）でもご覧いただけます。

◆一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類及び属性区分は以下の通りです。

＜商品分類表定義＞

［単位型投信・追加型投信の区分］

(1)単位型投信…当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。

(2)追加型投信…一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

［投資対象地域による区分］

(1)国内…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(2)海外…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(3)内外…目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

［投資対象資産(収益の源泉)による区分］

(1)株式…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(2)債券…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(3)不動産投信(リート)…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(4)その他資産…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。

(5)資産複合…目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

［独立した区分］

(1)MMF(マネー・マネージメント・ファンド)…「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。

(2)MRF(マネー・リザーブ・ファンド)…「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。

(3)ETF…投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

［補足分類］

(1)インデックス型…目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。

(2)特殊型…目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

＜属性区分表定義＞

［投資対象資産による属性区分］

(1)株式

①一般…次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。
②大型株…目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。
③中小型株…目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

(2)債券
①一般…次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。
②公債…目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。
③社債…目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。
④その他債券…目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。
⑤格付等クレジットによる属性…目論見書又は投資信託約款において、上記①から④の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記①から④に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

(3)不動産投信…これ以上の詳細な分類は行わないものとする。
(4)その他資産…組入れている資産を記載するものとする。
(5)資産複合…以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。
①資産配分固定型…目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。
②資産配分変更型…目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

［決算頻度による属性区分］
(1)年1回…目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
(2)年2回…目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
(3)年4回…目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
(4)年6回(隔月)…目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。
(5)年12回(毎月)…目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
(6)日々…目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。
(7)その他…上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

［投資対象地域による属性区分(重複使用可能)］
(1)グローバル…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。
(2)日本…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(3)北米…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(4)欧州…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とす

る旨の記載があるものをいう。
(5)アジア…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(6)オセアニア…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(7)中南米…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(8)アフリカ…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(9)中近東(中東)…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
(10)エマージング…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

［投資形態による属性区分］
(1)ファミリーファンド…目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。
(2)ファンド・オブ・ファンズ…「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

［為替ヘッジによる属性区分］
(1)為替ヘッジあり…目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
(2)為替ヘッジなし…目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行なわない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

［インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分］
(1)日経225
(2)TOPIX
(3)その他の指数…前記指数にあてはまらない全てのものをいう。

［特殊型］
(1)ブル・ベア型…目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。
(2)条件付運用型…目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
(3)ロング・ショート型／絶対収益追求型…目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
(4)その他型…目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(3)に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

＜ファンドの特色＞

3つの資産「外国債券」「国内株式」「Jリート(国内の不動産投資信託証券)」に分散投資します。

高金利外債マザーファンド、日本株配当マザーファンド、日本株中小型マザーファンド及びJリートマザーファンド(M)(以下これらを「マザーファンド」ということがあります。)の各受益証券への投資を通じて、安定した利子・配当収益の確保、値上がり益の追求及び信託財産の中長期的な成長を目指します。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。

<投資対象とするマザーファンド>

資産の種類	マザーファンドの名称	運用方針
外国債券	高金利外債 マザーファンド	主として、FTSE世界国債インデックス(除く日本)(※1)に採用されている国の国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などのうち、国際的な格付機関である米国S&P又は同Moody'sから、原則としてA格相当以上が付与された債券に投資することにより、安定した収益の確保及び信託財産の着実な成長を目指します。
国内株式	日本株配当 マザーファンド	わが国の株式の中から、予想配当利回りが比較的高いと判断される銘柄を中心に投資し、安定的な配当収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。また、わが国の株式の中から、配当増が予想される銘柄群も組み入れることにより、値上がり益の追求も目指します。
	日本株中小型 マザーファンド	わが国の中小型株式(※2)の中から、成長性・収益性が高く魅力的な株価水準にあると判断される銘柄を中心に投資し中長期的な信託財産の成長を目指します。
Jリート	Jリート マザーファンド(M)	わが国の金融商品取引所上場(上場予定を含みます。)の不動産投資信託証券を主要投資対象とし、東証REIT指数(配当込み)(※3)を上回る投資成果を目標として運用を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。

※1:FTSE世界国債インデックスとは

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※2:日本株中小型マザーファンドが投資対象とするわが国の中小型株式とは

原則として、東京証券取引所市場第一部に上場されている株式のうち時価総額3,000億円程度以下の銘柄及び東京証券取引所市場第一部以外の市場に上場されている全銘柄をいいます。ただし、保有している銘柄が、保有期間中に当該原則に該当しなくなった場合でも、保有を継続することがあります。

※3:東証REIT指数(配当込み)とは

株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)が算出、公表する指数で、東京証券取引所に上場しているREIT(不動産投資信託証券)全銘柄を対象とした時価総額加重型の指数です。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出したものです。同指数は、東証の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関する全ての権利は、東証が有しています。なお、東証は、ファンドの設定又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

基本配分比率は以下の通りです。

基本配分比率にはマザーファンド毎に一定の変動幅を設けます。
また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。

ポートフォリオ構築プロセス

ファンドマネジャーは基本配分比率に基づき、各資産のマザーファンドへ資金を配分し、値動き等によって一定以上乖離した場合は、リバランスを行います。

ポートフォリオ構築	ファンドマネジャー	●基本配分比率に従って、各資産のマザーファンドへ資金を配分
リバランス実施	ファンドマネジャー	●資産配分比率が基本配分比率から一定以上乖離した場合、リバランスを実施

※上記プロセスは、今後変更となる場合があります。

ファンドのしくみ

ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、投資者の皆様からお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資して、その実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。

分配方針

●年6回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
●分配対象額は、経費控除後の利子・配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。なお、前期から繰り越された分配準備積立金及び収益調整金は、全額分配に使用することがあります。
●分配金額については、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※上記はイメージであり、将来の分配金の支払い及びその金額について示唆あるいは保証するものではありません。

主な投資制限

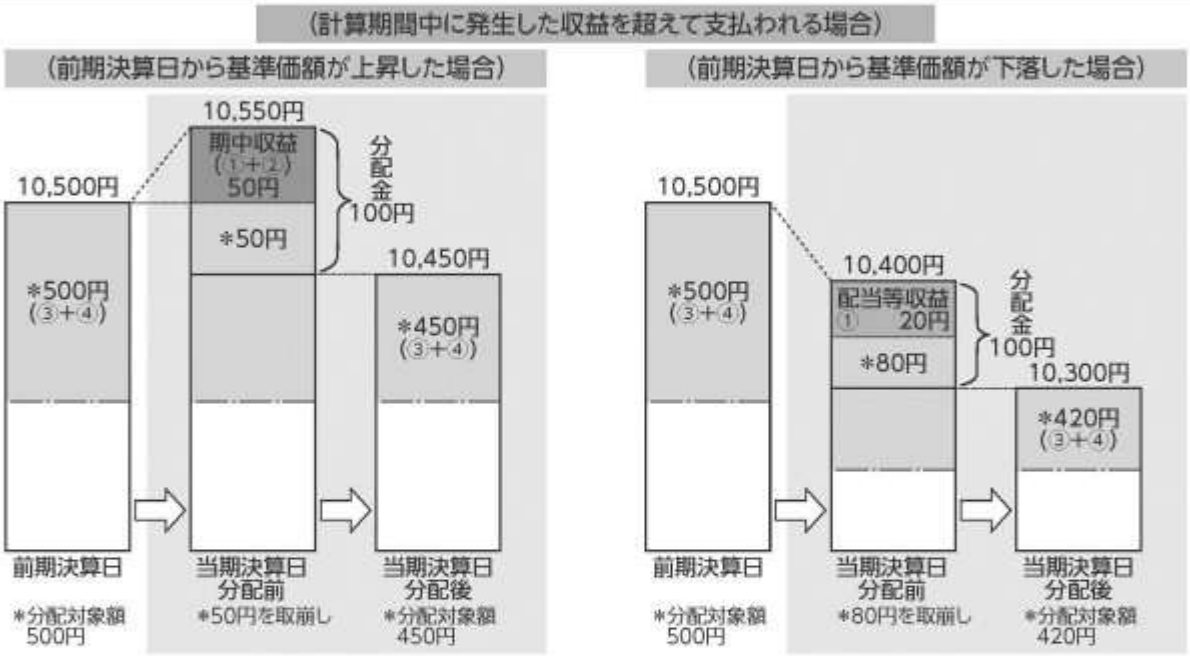
●株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の50%以下とします。
●外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の60%以下とします。

資金動向、市況動向、信託財産の規模等によっては、前記の運用ができない場合があります。

[収益分配金に関する留意事項]

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

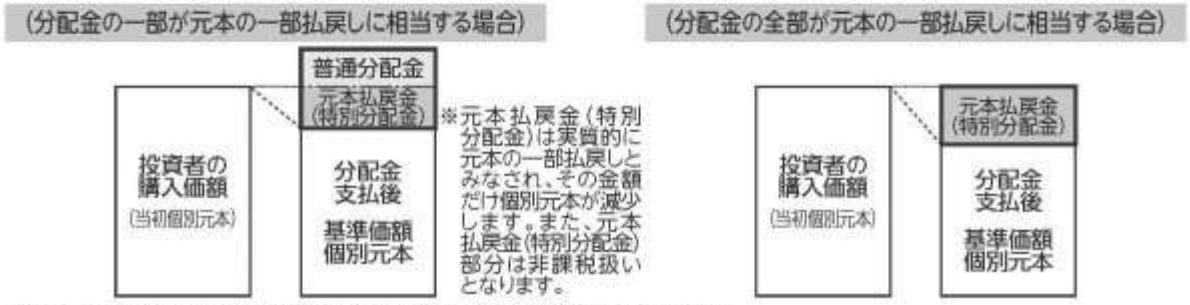
●分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。



（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益及び②経費控除後の評価益を含む売買益並びに③分配準備積立金及び④収益調整金です。
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆あるいは保証するものではありませんのでご留意ください。

●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。



普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、後掲「4 手数料等及び税金（5）課税上の取扱い」をご覧ください。

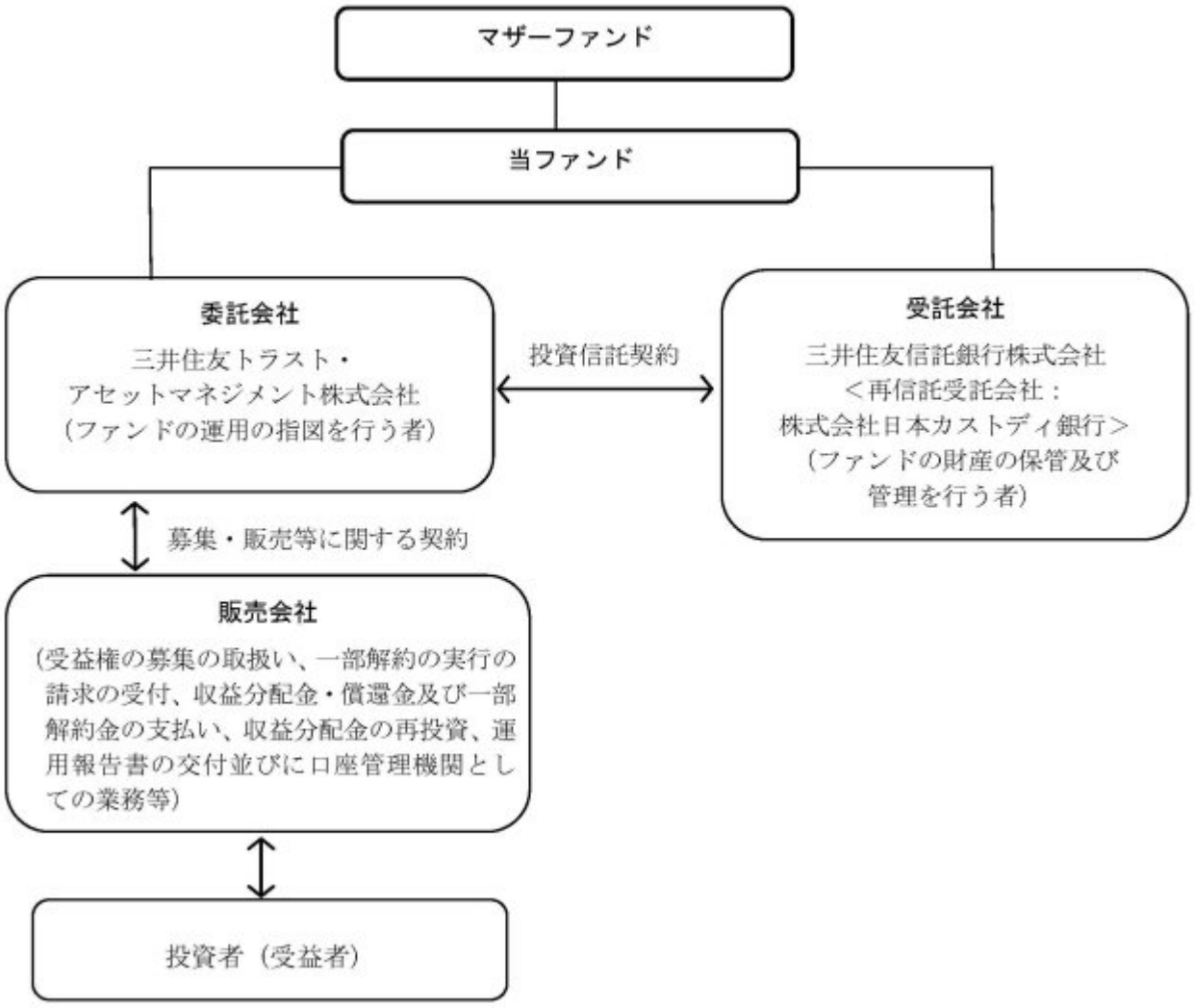
（2）【ファンドの沿革】

2006年3月31日	信託契約締結、当ファンドの設定、当ファンドの運用開始

2012年4月1日　　当ファンドの委託会社としての業務を中央三井アセットマネジメント株式会社から三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社に承継
当ファンドの主要投資対象である中央三井高金利外債マザーファンドの名称を高金利外債マザーファンド、中央三井日本株配当マザーファンドの名称を日本株配当マザーファンド、中央三井日本株中小型マザーファンドの名称を日本株中小型マザーファンド、中央三井Ｊリートマザーファンドの名称をＪリートマザーファンド（Ｍ）に変更

（３）【ファンドの仕組み】

①当ファンドの仕組み及び関係法人



②委託会社の概況（2020年 9月30日現在）

イ．資本金の額：20億円

ロ．委託会社の沿革

1986年11月1日：　住信キャピタルマネジメント株式会社設立
1987年2月20日：　投資顧問業の登録
1987年9月9日：　投資一任契約に係る業務の認可
1990年10月1日：　住信投資顧問株式会社に商号変更
1999年2月15日：　住信アセットマネジメント株式会社に商号変更
1999年3月25日：　証券投資信託委託業の認可
2007年9月30日：　金融商品取引法施行に伴う金融商品取引業者の登録（登録番号：関東財務局長（金商）第347号）

2012年4月1日：　中央三井アセットマネジメント株式会社と合併し、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社に商号変更

2018年10月1日：　三井住友信託銀行株式会社の運用事業に係る権利義務を承継

ハ．大株主の状況

株　主　名	住　　所	持株数	持株比率
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	3,000株	100%

2【投資方針】

（1）【投資方針】

① 運用方針

当ファンドは、「高金利外債マザーファンド」、「日本株配当マザーファンド」、「日本株中小型マザーファンド」及び「Ｊリートマザーファンド（Ｍ）」の各受益証券を主要投資対象とし、毎決算時の収益分配と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

② 投資態度

Ａ．各マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として外国の債券（FTSE世界国債インデックス（除く日本）に採用されている国の国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などのうち、国際的な格付機関である米国Ｓ＆Ｐ又は同Moody’sから、原則としてＡ格相当以上が付与された債券）、わが国の株式（わが国の株式のうち、予想配当利回りが比較的高いと判断される銘柄及び配当増が予想される銘柄群並びに成長性・収益性が高く魅力的な株価水準にあると判断される中小型銘柄群）、わが国の金融商品取引所（金融商品取引法第２条第16項に規定する金融商品取引所で有価証券の売買又は金融商品取引法第28条第８項第３号の取引を行う市場及び当該市場を開設するものをいいます。以下同じ。）上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託証券（金融商品取引法第２条第１項第10号に掲げる投資信託の受益証券（振替受益権を含みます。）または同項第11号に掲げる投資証券であって、投資者の資金を主として不動産関連資産に対する投資として運用することを目的とするもの）に投資し、安定した利子・配当収益の確保、値上がり益の追求及び中長期的な信託財産の成長を目指します。

Ｂ．各マザーファンド受益証券への基本配分比率は、「高金利外債マザーファンド」50%、「日本株配当マザーファンド」20%、「日本株中小型マザーファンド」20%、「Ｊリートマザーファンド（Ｍ）」10%とします。

Ｃ．上記の基本配分比率には受益証券毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。

Ｄ．実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

Ｅ．運用の効率化を図るため、株価指数先物取引及び債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式及び債券の組入総額と株価指数先物取引及び債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

Ｆ．株式以外の資産（他の投資信託受益証券（振替受益権を含みます。）を通じて投資する場合は、当該他の投資信託の信託財産に属する株式以外の資産のうち、この投資信託の信託財産に属するとみなした部分を含みます。）への投資は、原則として信託財産総額の75%以下とします。

Ｇ．資金動向、市況動向に急激な変化が生じたとき及びこれに準ずる事態が生じたとき、あるいは信託財産の規模が上記の運用をするに適さないものとなったときは、上記の運用ができない場合があります。

Ｈ．国内において行われる有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第８項第３号イに掲げるものをいいます。以下同じ。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第８項第３号ロに掲げ

るものをいいます。以下同じ。）、有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第８項第３号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。）、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引及び金利に係るオプション取引並びに外国の市場における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係るオプション取引、金利に係る先物取引及び金利に係るオプション取引と類似の取引を行うことができます。

Ｉ．信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利又は異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことができます。

Ｊ．信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引及び為替先渡取引を行うことができます。

（２）【投資対象】

①　投資の対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

１．次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第２条第20項に規定するものをいい、投資信託約款第28条、第29条及び第30条に定めるものに限ります。）

ハ．金銭債権（上記イ．、ロ．及び下記ニ．に掲げるものに該当するものを除きます。）

ニ．約束手形（上記イ．に掲げるものに該当するものを除きます。）

２．次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

②　運用指図できる投資対象である有価証券

委託会社は、信託金を、主として三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社を委託者とし、三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託「高金利外債マザーファンド」、親投資信託「日本株配当マザーファンド」、親投資信託「日本株中小型マザーファンド」及び親投資信託「Ｊリートマザーファンド（Ｍ）」の各受益証券並びに次に掲げる有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

１．株券又は新株引受権証書

２．国債証券

３．地方債証券

４．特別の法律により法人の発行する債券

５．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）

６．資産の流動化に関する法律に定める特定社債券（金融商品取引法第２条第１項第４号で定めるものをいいます。）

７．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第２条第１項第６号で定めるものをいいます。）

８．協同組織金融機関の優先出資に関する法律に定める優先出資証券又は優先出資引受権を表示する証書

９．資産の流動化に関する法律に定める優先出資証券又は新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第２条第１項第８号で定めるものをいいます。）

10．コマーシャル・ペーパー

11．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）及び新

株予約権証券

12. 外国又は外国の者の発行する証券又は証書で、上記１．から11. までの証券又は証書の性質を有するもの

13. 投資信託又は外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第10号で定めるものをいい、振替受益権を含みます。）

14. 投資証券又は外国投資証券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。）

15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第２条第１項第18号で定めるものをいいます。）

16. オプションを表示する証券又は証書（金融商品取引法第２条第１項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。）

17. 預託証書（金融商品取引法第２条第１項第20号で定めるものをいいます。）

18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書

19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

20. 抵当証券（金融商品取引法第２条第１項第16号で定めるものをいいます。）

21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

22. 外国の者に対する権利で上記21. の有価証券の性質を有するもの

なお、上記１．の証券又は証書並びに上記12. 及び17. の証券又は証書のうち上記１．の証券又は証書の性質を有するものを以下「株式」といい、上記２．から６．までの証券並びに上記12. 及び17. の証券又は証書のうち上記２．から６．までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、上記13. の証券及び上記14. の証券を以下「投資信託証券」といいます。

③　運用指図できる金融商品

Ａ．委託会社は、信託金を、上記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

１．預金

２．指定金銭信託（金融商品取引法第２条第１項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

３．コール・ローン

４．手形割引市場において売買される手形

５．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第２条第２項第１号で定めるもの

６．外国の者に対する権利で上記５．の権利の性質を有するもの

Ｂ．金融商品による運用の特例

上記②の規定にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときは、委託会社は、信託金を上記Ａ．に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（参考）マザーファンドの概要

「高金利外債マザーファンド」の概要

１．基本方針

この投資信託は、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

２．運用方法

（１）投資対象

FTSE世界国債インデックス（除く日本）に採用されている国の国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などを主要投資対象とします。

（２）投資態度

①　FTSE世界国債インデックス（除く日本）に採用されている国の国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などのうち、国際的な格付機関である米国Ｓ＆Ｐ又は同Moody’sから、原則としてＡ格相当以上が付与された債券に投資することにより、安定した収益の確保及び信託財産の着実な成長を目指します。

②　銘柄選択については、上記債券の中から相対的に金利が高い国の債券を選び、国別、通貨別、残存期間などを考慮しながら、分散投資を行い、その組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。各国の投資比率は、相対的魅力度、流動性、信用力、金利の方向性などの分析をもとに決定します。

③　外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、為替予約取引等を活用する場合があります。

④　運用の効率化を図るため、債券先物取引等を活用することがあります。このため、債券の組入総額と債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

⑤　わが国の取引所（金融商品取引所等を含む。以下同じ。）における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引及び金利に係るオプション取引並びに外国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係るオプション取引、金利に係る先物取引及び金利に係るオプション取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

⑥　信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、スワップ取引を行うことができます。

⑦　信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引及び為替先渡取引を行うことができます。

⑧　資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき及びこれに準ずる事態が生じたとき、あるいは信託財産の規模が上記の運用をするに適さないものとなったときは、上記の運用ができない場合があります。

３．投資制限

①　株式への投資は転換社債を転換したもの及び新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）を行使したものに限ることとし、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

②　同一銘柄の株式への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。

③　同一銘柄の転換社債、並びに同一銘柄の転換社債型新株予約権付社債への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

④　外貨建資産への投資には、制限を設けません。

⑤　一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

⑥　デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、オプションを表示する証券もしくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

「日本株配当マザーファンド」の概要

１．基本方針

この投資信託は、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

２．運用方法

（１）投資対象

わが国の株式を主要投資対象とします。

（２）投資態度

①　わが国の株式の中から、予想配当利回りが比較的高いと判断される銘柄を中心に投資し、安定的な配当収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。

②　また、わが国の株式の中から、配当増が予想される銘柄群も組み入れることにより、値上がり益の追求も目指します。

③　株式の組入れ比率は、原則として高位を維持します。株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

④　運用の効率化を図るため、株価指数先物取引等を活用することがあります。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

⑤　資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき及びこれに準ずる事態が生じたとき、あるいは信託財産の規模が上記の運用をするに適さないものとなったときは、上記の運用ができない場合があります。

３．投資制限

①　株式への投資割合には制限を設けません。

②　外貨建資産への投資は行いません。

③　新株引受権証券及び新株予約権証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

④　投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の５%以下とします。

⑤　同一銘柄の株式への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

⑥　同一銘柄の新株引受権証券及び新株予約権証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。

⑦　同一銘柄の転換社債、並びに同一銘柄の転換社債型新株予約権付社債への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。

⑧　一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会の規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

⑨　デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券又はオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

「日本株中小型マザーファンド」の概要

１．基本方針

この投資信託は、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

２．運用方法

（１）投資対象

わが国の中小型株式を主要投資対象とします。

（２）投資態度

① わが国の中小型株式の中から、成長性・収益性が高く魅力的な株価水準にあると判断される銘柄を中心に投資し中長期的な信託財産の成長を目指します。
② 株式の組入れ比率は、原則として高位を維持します。株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。
③ 運用の効率化を図るため、株価指数先物取引等を活用することがあります。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。
④ 資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき及びこれに準ずる事態が生じたとき、あるいは信託財産の規模が上記の運用をするに適さないものとなったときは、上記の運用ができない場合があります。

３．投資制限

① 株式への投資割合には制限を設けません。
② 外貨建資産への投資は行いません。
③ 新株引受権証券及び新株予約権証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。
④ 投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の５%以下とします。
⑤ 同一銘柄の株式への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
⑥ 同一銘柄の新株引受権証券及び新株予約権証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。
⑦ 同一銘柄の転換社債、並びに同一銘柄の転換社債型新株予約権付社債への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。
⑧ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
⑨ デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券又はオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

「Ｊリートマザーファンド（Ｍ）」の概要

１．基本方針

この投資信託は、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

２．運用方法

（１）投資対象

わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託証券を主要投資対象とします。

（２）投資態度

① 主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託証券に投資します。なお、不動産投資信託証券の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
② 東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を上回る投資成果を目標として運用を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。
③ 資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき及びこれに準ずる事態が生じたとき、あるいは信託財産の規模が上記の運用をするに適さないものとなったときは、上記の運用ができない場合がありま

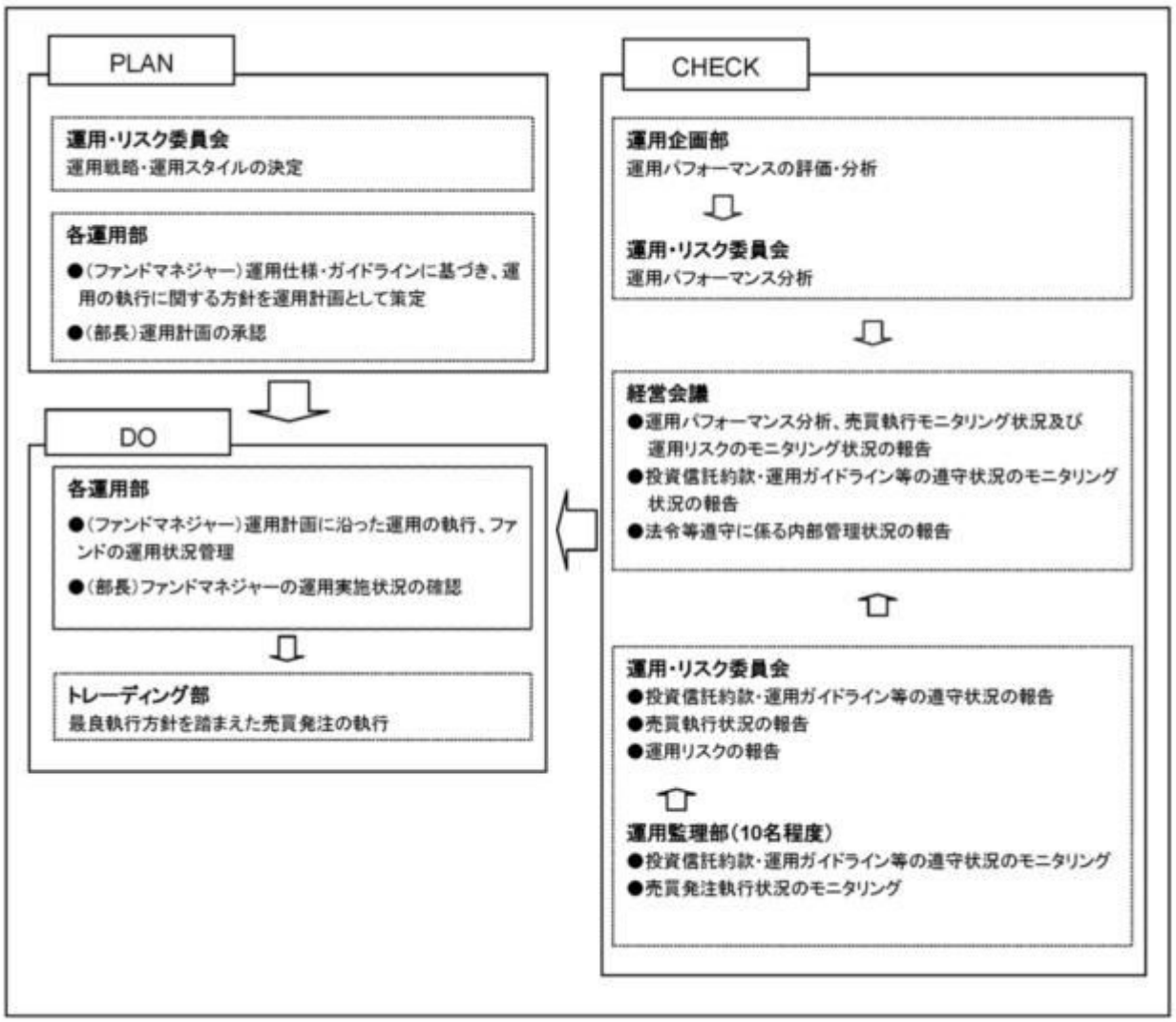
す。

３．投資制限

①　投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
②　同一銘柄の投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
③　株式への投資は行いません。
④　外貨建資産への投資は行いません。
⑤　デリバティブ（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいいます。）の直接利用は行いません。
⑥　一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対するエクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として35%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
⑦　デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものを除き、新投資口予約権証券に係る取引に限ります。）について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

（３）【運用体制】

ファンドの運用体制は以下の通りです。記載された体制、委員会等の名称、人員等は、今後変更されることがあります。



委託会社では社内規定を定めて運用に係る組織及びその権限と責任を明示するとともに、運用を行うに当たって遵守すべき基本的な事項を含め、運用とリスク管理を適正に行うことを目的とした運用等に係る業務規則を定めています。

委託会社は、受託会社又は再信託受託会社に対して、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、外部監査法人による内部統制の整備及び運用状況の報告書を再信託受託会社より受け取っております。

（４）【分配方針】

・年６回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
・分配対象額は、経費控除後の利子・配当等収益及び売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。なお、前期から繰り越された分配準備積立金及び収益調整金は、全額分配に使用することがあります。
・分配金額については、上記の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。
・収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
・第１計算期は無分配とし、第２計算期から分配を開始します。
※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

（５）【投資制限】

＜約款に定める投資制限＞

Ａ．株式への投資割合
　委託会社は、株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の50%以下とします。

Ｂ．外貨建資産の投資割合
　委託会社は、外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の60%以下とします。

Ｃ．新株引受権証券等への投資割合
　委託会社は、新株引受権証券及び新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

Ｄ．同一銘柄の株式への投資割合
　委託会社は、同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

Ｅ．同一銘柄の転換社債等への投資割合
　委託会社は、同一銘柄の転換社債、並びに同一銘柄の新株予約権付社債のうち会社法第236条第１項第３号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ３第１項第７号及び第８号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。

Ｆ．同一銘柄の新株引受権証券等への投資割合
　委託会社は、同一銘柄の新株引受権証券及び新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の５%以下とします。

G．同一銘柄の投資信託証券への投資割合

委託会社は、同一銘柄の投資信託証券（マザーファンド受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の５％以下とします。

H．投資する株式等の範囲

イ．委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券及び新株予約権証券は、金融商品取引所等（金融商品取引所及び外国金融商品市場（金融商品取引法第２条第８項第３号ロに規定する外国金融商品市場で有価証券の売買又は金融商品取引法第28条第８項第５号の取引を行う市場及び当該市場を開設するものをいいます。）をいいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所等に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当又は社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券及び新株予約権証券については、この限りではありません。

ロ．上記イ．の規定にかかわらず、上場予定又は登録予定の株式、新株引受権証券及び新株予約権証券で目論見書等において上場又は登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

Ｉ．信用取引の運用指図

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡し又は買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

ロ．上記イ．の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付けに係る建玉のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該売付けに係る建玉の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）の合計額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。

ハ．信託財産の一部解約等の事由により、上記ロ．の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

Ｊ．先物取引等の運用指図

イ．委託会社は、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引及び有価証券オプション取引並びに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。

ロ．委託会社は、わが国の取引所における通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引並びに外国の取引所における通貨に係る先物取引及びオプション取引を行うことの指図をすることができます。

ハ．委託会社は、わが国の取引所における金利に係る先物取引及びオプション取引並びに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

Ｋ．スワップ取引の運用指図

イ．委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、スワップ取引を行うことの指図をすることができます。

ロ．スワップ取引の指図に当たっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

ハ．スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

ニ．委託会社は、スワップ取引を行うに当たり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

Ｌ．金利先渡取引及び為替先渡取引の運用指図

イ．委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引及び為替先渡

取引を行うことを指図することができます。

ロ．金利先渡取引及び為替先渡取引の指図に当たっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

ハ．金利先渡取引及び為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

ニ．委託会社は、金利先渡取引及び為替先渡取引を行うに当たり、担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

M．有価証券の貸付の指図範囲

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式及び公社債を次のａ．及びｂ．の範囲内で貸付の指図をすることができます。

ａ．株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

ｂ．公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

ロ．信託財産の一部解約等の事由により、上記イ．ａ．及びｂ．に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

ハ．委託会社は、有価証券の貸付に当たり、担保の受入れが必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

N．公社債の空売りの指図範囲

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない公社債又は、下記O．の規定により借入れた公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、売付けた公社債の引き渡し又は買い戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

ロ．上記イ．の売付けの指図は、当該売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

ハ．信託財産の一部解約等の事由により、上記ロ．の売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

O．公社債の借入れの指図範囲

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うに当たり、担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。

ロ．上記イ．の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

ハ．信託財産の一部解約等の事由により、上記ロ．の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

ニ．上記イ．の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

P．特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

Q．外国為替予約取引の指図

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。下記ロ．において同じ。）との合計額につ

いて、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

ロ．上記イ．の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産（マザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。）の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。

ハ．上記ロ．の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

R．一部解約の請求及び有価証券売却等の指図

委託会社は、信託財産に属するマザーファンドの受益証券に係る信託契約の一部解約の請求及び信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

S．再投資の指図

委託会社は、上記R．の規定による一部解約代金及び売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金及びその他の収入金を再投資することを指図することができます。

T．資金の借入れ

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用並びに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、又は再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間又は受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が５営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は、借入れ指図を行う日の信託財産の純資産総額の10%以内における、当該有価証券の売却代金、有価証券等の解約代金及び有価証券等の償還金の合計額を限度とします。

ハ．収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

ニ．借入金の利息は信託財産中から支弁します。

U．受託会社による資金の立替え

イ．信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行又は株式割当がある場合で、委託会社の申出があるときは、受託会社は資金の立替えをすることができます。

ロ．信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金及びその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託会社がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。

ハ．上記イ．及びロ．の立替金の決済及び利息については、受託会社と委託会社との協議によりそのつど別にこれを定めます。

V．受託会社の自己又は利害関係人等との取引

イ．受託会社は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律並びに関連法令に反しない場合には、委託会社の指図により、信託財産と、受託会社及び受託会社の利害関係人（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律にて準用する信託業法第29条第２項第１号に規定する利害関係人をいいます。以下イ．において同じ。）、信託業務の委託先及びその利害関係人又は受託会社における他の信託財産との間で、前記（２）に定める資産への投資等を行うことができます。

ロ．上記イ．の取扱いは、上記Ｉ．からＯ．まで及びQ．からＳ．までにおける委託会社の指図に

よる取引についても同様とします。

W．一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

X．デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券又はオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

＜関連法令に基づく投資制限＞

イ．同一の法人の発行する株式への投資制限

（投資信託及び投資法人に関する法律、同法施行規則）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

（1）ファンドのリスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

●信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。

●投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの主なリスクは以下の通りです。

① 株価変動リスク

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

② リートの価格変動リスク

リートの価格は、不動産市況（不動産稼働率、賃貸料、不動産価格等）、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制等の変更、災害等の要因により変動します。また、リート及びリートの運用会社の業績、財務状況の変化等により価格が変動し、基準価額の変動要因となります。

③ 為替変動リスク

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

④ 金利変動リスク

債券の価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

⑤ 信用リスク

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

⑥ 流動性リスク

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

⑦　カントリーリスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※当ファンドのリスクは、上記に限定されるものではありません。

＜その他の留意点＞

①　同じマザーファンドに投資する他のベビーファンドの資金変動等に伴いマザーファンドにおいて有価証券の売買等が発生した場合、基準価額に影響を与えることがあります。

②　ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

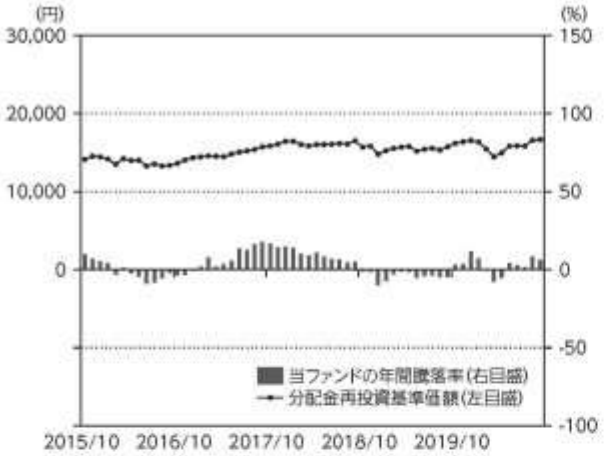
（2）リスクの管理体制

委託会社におけるリスク管理体制

・運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用・リスク委員会等に報告します。

〔参考情報〕

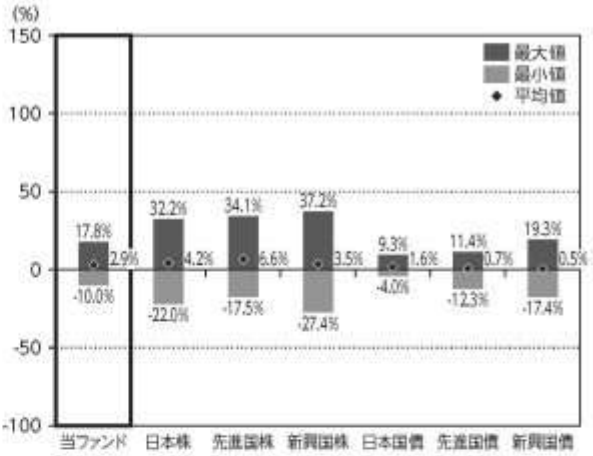
当ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*当ファンドの分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



*2015年10月～2020年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。他の代表的な資産クラス全てが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数について

日本株 TOPIX(東証株価指数、配当込み)	TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)が算出、公表する指数で、東京証券取引所市場第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象とした時価総額加重型の株価指数です。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数は、東証の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関する全ての権利は、東証が有しています。なお、東証は、ファンドの設定又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
先進国株 MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。また「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)	MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。また「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
日本国債 NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募固定利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債 JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)	本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2014, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベース指数を使用しております。

4【手数料等及び税金】

（1）【申込手数料】

①取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜　3.0%）（※1）の率を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料は、商品説明等に係る費用等の対価として、販売会社に支払われます。

※1：「税抜」における「税」とは、消費税及び地方消費税（以下「消費税等」といいます。）をいいます（以下同じ。）。

②「分配金再投資コース」（※2）において収益分配金を再投資する場合は無手数料とします。

※2：収益分配金の受取方法により、「分配金受取りコース」（税金を差し引いた後に現金でお受取りになるコース）と「分配金再投資コース」（税金を差し引いた後に自動的に当ファンドの受益権に無手数料で再投資されるコース）の2つの申込方法があります。ただし、販売会社により取扱いコースが異なる場合があります。

③上記①及び②の詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。販売会社の詳細につきましては、下記に記載の照会先までお問い合わせください。

（照会先）
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
ホームページ：https://www.smtam.jp/
フリーダイヤル：0120-668001
（受付時間は営業日の午前9時から午後5時までとします。）

（２）【換金（解約）手数料】

＜解約手数料＞
ありません。

＜信託財産留保額＞
ご解約時には、解約請求受付日の翌営業日の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を信託財産留保額（※）として当該基準価額から控除します。また、当ファンドが保有するマザーファンドの受益証券の解約に伴う信託財産留保額を、当ファンドが負担します。

※「信託財産留保額」とは、償還時まで投資を続ける投資者との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、信託期間満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、投資信託財産に繰り入れられます。

（３）【信託報酬等】

信託報酬等の額及び支弁の方法

①信託報酬の総額は、当ファンドの計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年率　1.32%（税抜　1.2%）を乗じて得た額とします（信託報酬 ＝ 運用期間中の基準価額×信託報酬率）。

その配分及び当該信託報酬を対価とする役務の内容は下記の通りです。

委託会社	年率　0.572%　（税抜　0.52%）	委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価
販売会社	年率　0.671%　（税抜　0.61%）	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	年率　0.077%　（税抜　0.07%）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

②信託報酬は、毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。信託報酬は、毎計算期末又は信託終了のときに投資信託財産中から支弁します。

③信託報酬に係る消費税等相当額を、信託報酬支弁のときに投資信託財産中から支弁します。

（４）【その他の手数料等】

①信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用及び受託会社の立て替えた立替金の利息（「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、そのつど信託財産中から支弁します（マザーファンドにおいて負担する場合を含みます。）。

②借入金の利息は、受益者の負担とし、原則として借入金返済時に信託財産中から支弁します。

③当ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料（※）、先物取引・オプション取引に要する費用（※）、組入資産の保管に要する費用（※）等は、受益者の負担とし、取引のつど信託財産中から支弁します（マザーファンドにおいて負担する場合を含みます。）。

④信託財産の財務諸表の監査に要する費用（※）は、受益者の負担とし、日々計上のうえ毎計算期末又は信託終了のときに信託財産中から支弁します。

⑤これらの手数料等は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記における役務提供の内容は以下の通りです。

組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、売買仲介人に支払う手数料
先物取引・オプション取引に要する費用は、売買仲介人に支払う手数料
組入資産の保管に要する費用は、保管機関に支払う手数料
財務諸表の監査に要する費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
上記の費用にはそれぞれ消費税等相当額が含まれます。

手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。また、上場投資信託証券は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託証券の費用は表示しておりません。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

①個人の受益者に対する課税

イ．収益分配金に対する課税

収益分配金のうち配当所得として課税扱いとなる普通分配金については、以下の税率による源泉徴収が行われます。
なお原則として確定申告不要ですが、確定申告により、申告分離課税又は総合課税（原則として配当控除の適用が可能です。）のいずれかを選択することもできます。

	税　率（内　訳）
2037年12月31日まで	20.315%（所得税15.315%、住民税5%）
2038年1月1日以降	20%（所得税15%、住民税5%）

（2037年12月31日までの間は、復興特別所得税の税率が含まれます。）

ロ．一部解約金及び償還金に対する課税

一部解約時及び償還時の譲渡益は譲渡所得として課税対象となり、申告分離課税が適用されます（特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。）。その税率は、上記イ．の表の通りです。

ハ．損益通算について

一部解約時及び償還時の譲渡損益については、確定申告により、特定公社債等の利子所得及び譲渡所得等の所得間並びに上場株式等（公募株式投資信託を含みます。）の配当所得（申告分離

課税を選択したものに限ります。）及び譲渡所得等との損益通算が可能です。

ニ．少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」をご利用の場合

NISA及びジュニアNISAは、上場株式、公募株式投資信託等に係る非課税制度です。

ご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

②法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金並びに一部解約時及び償還時の個別元本超過額については、以下の税率による源泉徴収が行われます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税額から控除できます。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

	税　率　（所得税のみ）
2037年12月31日まで	15.315%
2038年1月1日以降	15%

（2037年12月31日までの間は、復興特別所得税の税率が含まれます。）

③個別元本について

イ．追加型株式投資信託について、受益者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料及び当該申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）に当たります。

ロ．受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ハ．ただし個別元本は、複数支店で同一ファンドの受益権を取得する場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社へお問い合わせください。

ニ．受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の「④普通分配金と元本払戻金（特別分配金）について」をご参照ください。）

④普通分配金と元本払戻金（特別分配金）について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、

イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合又は当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、

ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※上記は、2020年 9月30日現在のものですので、税法等が改正された場合等には、上記の内容が変更される場合があります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

以下は、2020年9月30日現在の状況について記載してあります。

【３資産バランスオープンアルファ】

（１）【投資状況】

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	1,592,928,838	99.71
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	―	4,611,926	0.29
合計(純資産総額)		1,597,540,764	100.00

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率とは、本ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

イ.評価額上位銘柄明細

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額(円) 単価	帳簿価額(円) 金額	評価額(円) 単価	評価額(円) 金額	投資比率(%)
日本	親投資信託受益証券	高金利外債マザーファンド	441,862,861	1.7889	790,448,472	1.7599	777,634,449	48.68
日本	親投資信託受益証券	日本株中小型マザーファンド	93,217,951	3.3954	316,512,231	3.6188	337,337,121	21.12
日本	親投資信託受益証券	日本株配当マザーファンド	167,260,858	1.9309	322,963,991	1.9265	322,228,042	20.17
日本	親投資信託受益証券	Ｊリートマザーファンド（Ｍ）	53,783,190	2.8718	154,454,565	2.8955	155,729,226	9.75

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率は、本ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ.種類別投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.71
合計	99.71

(注)投資比率は、本ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

	純資産総額（円）		1万口当たりの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第10特定期間末 (2011年 3月10日)	6,953,495,345	6,998,595,900	6,167	6,207
第11特定期間末 (2011年 9月12日)	5,419,411,261	5,457,225,978	5,733	5,773
第12特定期間末 (2012年 3月12日)	4,795,286,200	4,827,023,027	6,044	6,084
第13特定期間末 (2012年 9月10日)	3,955,064,998	3,975,454,721	5,819	5,849
第14特定期間末 (2013年 3月11日)	4,390,861,973	4,408,372,026	7,523	7,553
第15特定期間末 (2013年 9月10日)	3,997,114,212	4,012,196,058	7,951	7,981
第16特定期間末 (2014年 3月10日)	3,557,559,407	3,570,232,575	8,421	8,451
第17特定期間末 (2014年 9月10日)	3,366,046,777	3,377,255,377	9,009	9,039
第18特定期間末 (2015年 3月10日)	3,181,509,319	3,191,258,962	9,790	9,820
第19特定期間末 (2015年 9月10日)	2,674,833,733	2,683,293,797	9,485	9,515
第20特定期間末 (2016年 3月10日)	2,505,811,484	2,513,641,111	9,601	9,631
第21特定期間末 (2016年 9月12日)	2,242,884,150	2,250,311,713	9,059	9,089
第22特定期間末 (2017年 3月10日)	2,216,165,223	2,222,834,655	9,969	9,999
第23特定期間末 (2017年 9月11日)	2,111,549,948	2,117,686,725	10,322	10,352
第24特定期間末 (2018年 3月12日)	1,992,960,494	1,998,878,504	10,103	10,133
第25特定期間末 (2018年 9月10日)	1,912,953,910	1,918,739,393	9,919	9,949
第26特定期間末 (2019年 3月11日)	1,736,890,934	1,742,342,363	9,558	9,588
第27特定期間末 (2019年 9月10日)	1,689,291,659	1,694,563,311	9,613	9,643
第28特定期間末 (2020年 3月10日)	1,480,336,228	1,485,266,220	9,008	9,038
第29特定期間末 (2020年 9月10日)	1,599,151,995	1,603,922,334	10,057	10,087
2019年 9月末日	1,686,629,843	—	9,718	—
10月末日	1,704,478,344	—	9,998	—
11月末日	1,706,518,047	—	10,095	—
12月末日	1,702,421,600	—	10,191	—
2020年 1月末日	1,672,661,359	—	10,044	—
2月末日	1,572,679,689	—	9,482	—
3月末日	1,441,147,931	—	8,847	—
4月末日	1,491,415,100	—	9,165	—
5月末日	1,561,623,635	—	9,647	—
6月末日	1,565,399,172	—	9,684	—
7月末日	1,549,165,190	—	9,621	—
8月末日	1,609,785,218	—	10,085	—
9月末日	1,597,540,764	—	10,105	—

②【分配の推移】

	期　間	1万口当たりの分配金（円）
第10特定期間	2010年 9月11日～2011年 3月10日	120
第11特定期間	2011年 3月11日～2011年 9月12日	120
第12特定期間	2011年 9月13日～2012年 3月12日	120
第13特定期間	2012年 3月13日～2012年 9月10日	100
第14特定期間	2012年 9月11日～2013年 3月11日	90
第15特定期間	2013年 3月12日～2013年 9月10日	90
第16特定期間	2013年 9月11日～2014年 3月10日	90
第17特定期間	2014年 3月11日～2014年 9月10日	90
第18特定期間	2014年 9月11日～2015年 3月10日	90
第19特定期間	2015年 3月11日～2015年 9月10日	90
第20特定期間	2015年 9月11日～2016年 3月10日	90
第21特定期間	2016年 3月11日～2016年 9月12日	90
第22特定期間	2016年 9月13日～2017年 3月10日	90
第23特定期間	2017年 3月11日～2017年 9月11日	90
第24特定期間	2017年 9月12日～2018年 3月12日	640
第25特定期間	2018年 3月13日～2018年 9月10日	90
第26特定期間	2018年 9月11日～2019年 3月11日	90
第27特定期間	2019年 3月12日～2019年 9月10日	90
第28特定期間	2019年 9月11日～2020年 3月10日	90
第29特定期間	2020年 3月11日～2020年 9月10日	90

③【収益率の推移】

	期　間	収益率（%）
第10特定期間	2010年 9月11日～2011年 3月10日	11.6
第11特定期間	2011年 3月11日～2011年 9月12日	△5.1
第12特定期間	2011年 9月13日～2012年 3月12日	7.5
第13特定期間	2012年 3月13日～2012年 9月10日	△2.1
第14特定期間	2012年 9月11日～2013年 3月11日	30.8
第15特定期間	2013年 3月12日～2013年 9月10日	6.9
第16特定期間	2013年 9月11日～2014年 3月10日	7.0
第17特定期間	2014年 3月11日～2014年 9月10日	8.1
第18特定期間	2014年 9月11日～2015年 3月10日	9.7
第19特定期間	2015年 3月11日～2015年 9月10日	△2.2
第20特定期間	2015年 9月11日～2016年 3月10日	2.2
第21特定期間	2016年 3月11日～2016年 9月12日	△4.7
第22特定期間	2016年 9月13日～2017年 3月10日	11.0
第23特定期間	2017年 3月11日～2017年 9月11日	4.4
第24特定期間	2017年 9月12日～2018年 3月12日	4.1

第25特定期間	2018年 3月13日～2018年 9月10日	△0.9
第26特定期間	2018年 9月11日～2019年 3月11日	△2.7
第27特定期間	2019年 3月12日～2019年 9月10日	1.5
第28特定期間	2019年 9月11日～2020年 3月10日	△5.4
第29特定期間	2020年 3月11日～2020年 9月10日	12.6

(注1)収益率とは、各特定期間末の基準価額(分配落)から前特定期間末の基準価額(分配落)を控除した額に特定期間中の分配金累計額を加算し、前特定期間末の基準価額(分配落)で除して得た数に100を乗じて得た数字です。

(注2)小数第2位を四捨五入しております。

（４）【設定及び解約の実績】

	期　間	設定口数（口）	解約口数（口）	発行済み口数（口）
第10特定期間	2010年 9月11日～2011年 3月10日	41,233,241	2,589,601,149	11,275,138,834
第11特定期間	2011年 3月11日～2011年 9月12日	34,232,372	1,855,691,812	9,453,679,394
第12特定期間	2011年 9月13日～2012年 3月12日	31,195,045	1,550,667,550	7,934,206,889
第13特定期間	2012年 3月13日～2012年 9月10日	25,948,472	1,163,580,792	6,796,574,569
第14特定期間	2012年 9月11日～2013年 3月11日	18,875,032	978,764,967	5,836,684,634
第15特定期間	2013年 3月12日～2013年 9月10日	28,123,972	837,526,362	5,027,282,244
第16特定期間	2013年 9月11日～2014年 3月10日	49,093,260	851,986,135	4,224,389,369
第17特定期間	2014年 3月11日～2014年 9月10日	13,839,860	502,028,902	3,736,200,327
第18特定期間	2014年 9月11日～2015年 3月10日	14,573,308	500,892,336	3,249,881,299
第19特定期間	2015年 3月11日～2015年 9月10日	39,375,539	469,235,482	2,820,021,356
第20特定期間	2015年 9月11日～2016年 3月10日	40,176,783	250,322,285	2,609,875,854
第21特定期間	2016年 3月11日～2016年 9月12日	19,752,354	153,773,652	2,475,854,556
第22特定期間	2016年 9月13日～2017年 3月10日	17,384,066	270,094,371	2,223,144,251
第23特定期間	2017年 3月11日～2017年 9月11日	13,079,141	190,630,994	2,045,592,398
第24特定期間	2017年 9月12日～2018年 3月12日	67,623,189	140,545,444	1,972,670,143
第25特定期間	2018年 3月13日～2018年 9月10日	48,813,253	92,988,996	1,928,494,400
第26特定期間	2018年 9月11日～2019年 3月11日	14,504,079	125,855,415	1,817,143,064
第27特定期間	2019年 3月12日～2019年 9月10日	9,815,760	69,741,465	1,757,217,359
第28特定期間	2019年 9月11日～2020年 3月10日	8,847,892	122,734,546	1,643,330,705
第29特定期間	2020年 3月11日～2020年 9月10日	12,523,952	65,741,594	1,590,113,063

(注)当該特定期間中において、本邦外における設定または解約の実績はありません。

（参考）

高金利外債マザーファンド

投資状況

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）

国債証券	アメリカ	2,336,715,336	11.94
	ノルウェー	1,799,103,834	9.19
	イギリス	977,681,596	5.00
	カナダ	258,116,366	1.32
	オーストラリア	62,209,950	0.32
	小計	5,433,827,082	27.77
地方債証券	カナダ	6,939,152,883	35.47
	オーストラリア	1,155,442,391	5.91
	小計	8,094,595,274	41.37
特殊債券	国際機関	5,349,287,128	27.34
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	—	688,426,135	3.52
合計(純資産総額)		19,566,135,619	100.00

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ.評価額上位銘柄明細

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額(円) 単価	帳簿価額(円) 金額	評価額(円) 単価	評価額(円) 金額	利率(%)	償還期限	投資比率(%)
カナダ	地方債証券	BRCOL 2.25% 06/02/26	30,000,000	10,785.25	3,235,575,600	11,563.51	3,469,055,040	2.250	2026/6/2	17.73
国際機関	特殊債券	EIB 1.5% 01/26/24	238,000,000	1,113.34	2,649,754,435	1,161.56	2,764,521,891	1.500	2024/1/26	14.13
カナダ	地方債証券	BRCOL 5.7% 06/18/29	19,500,000	10,349.05	2,018,066,218	10,895.15	2,124,555,192	5.700	2029/6/18	10.86
国際機関	特殊債券	EIB 3.1% 08/17/26	12,000,000	8,362.14	1,003,456,865	8,609.59	1,033,151,611	3.100	2026/8/17	5.28
イギリス	国債証券	UKT 4.25% 12/07/49	3,710,000	23,774.92	882,049,642	26,352.60	977,681,596	4.250	2049/12/7	5.00
アメリカ	国債証券	T 3.125% 08/15/44	6,680,000	12,225.19	816,642,692	14,522.70	970,116,569	3.125	2044/8/15	4.96
国際機関	特殊債券	EIB 4.5% 06/07/29	5,100,000	17,844.93	910,091,804	18,301.72	933,387,894	4.500	2029/6/7	4.77
ノルウェー	国債証券	NGB 1.375% 08/19/30	76,000,000	1,211.40	920,668,865	1,207.32	917,567,813	1.375	2030/8/19	4.69
ノルウェー	国債証券	NGB 1.75% 09/06/29	71,000,000	1,173.19	832,971,156	1,241.60	881,536,021	1.750	2029/9/6	4.51
アメリカ	国債証券	T 3.125% 05/15/21	6,100,000	10,892.11	664,418,710	10,779.20	657,531,298	3.125	2021/5/15	3.36
オーストラリア	地方債証券	TCV 4.25% 12/20/32	6,500,000	9,746.55	633,525,857	9,945.80	646,477,488	4.250	2032/12/20	3.30
カナダ	地方債証券	BRCOL 2.85% 06/18/25	6,000,000	8,306.92	498,415,340	8,708.78	522,527,393	2.850	2025/6/18	2.67
カナダ	地方債証券	BRCOL 4.95% 06/18/40	4,000,000	11,215.93	448,637,504	11,960.20	478,408,105	4.950	2040/6/18	2.45
アメリカ	国債証券	T 1.5% 02/15/30	3,800,000	11,404.43	433,368,372	11,448.71	435,051,254	1.500	2030/2/15	2.22
国際機関	特殊債券	IADB 4.75% 08/27/24	4,000,000	8,787.03	351,481,439	8,799.37	351,975,144	4.750	2024/8/27	1.80
カナダ	地方債証券	BRCOL 3.3% 12/18/23	4,000,000	8,369.79	334,791,627	8,615.17	344,607,153	3.300	2023/12/18	1.76
国際機関	特殊債券	IFC 3.15% 06/26/29	3,000,000	8,594.12	257,823,639	8,875.01	266,250,588	3.150	2029/6/26	1.36
アメリカ	国債証券	T 6.25% 08/15/23	1,700,000	12,345.53	209,874,138	12,438.93	211,461,965	6.250	2023/8/15	1.08

オーストラリア	地方債証券	TCV 2.25% 11/20/34	2,000,000	7,652.94	153,058,995	8,092.11	161,842,256	2.250	2034/11/20	0.83
オーストラリア	地方債証券	NSWTC 2% 03/20/31	2,000,000	7,775.88	155,517,704	8,078.29	161,565,963	2.000	2031/3/20	0.83
オーストラリア	地方債証券	TCV 5.5% 11/17/26	1,000,000	9,690.61	96,906,135	9,782.93	97,829,378	5.500	2026/11/17	0.50
カナダ	国債証券	CAN 5% 06/01/37	700,000	11,972.80	83,809,655	13,063.73	91,446,166	5.000	2037/6/1	0.47
オーストラリア	地方債証券	TCV 3% 10/20/28	1,000,000	8,508.17	85,081,759	8,772.73	87,727,306	3.000	2028/10/20	0.45
カナダ	国債証券	CAN 4.0% 06/01/41	700,000	12,519.93	87,639,528	12,459.51	87,216,599	4.000	2041/6/1	0.45
カナダ	国債証券	CAN 0.75% 09/01/21	1,000,000	7,949.62	79,496,277	7,945.36	79,453,601	0.750	2021/9/1	0.41
アメリカ	国債証券	T 5.375% 02/15/31	400,000	14,347.47	57,389,887	15,638.56	62,554,250	5.375	2031/2/15	0.32
オーストラリア	国債証券	ACGB 3.75% 04/21/37	600,000	10,262.11	61,572,663	10,368.32	62,209,950	3.750	2037/4/21	0.32

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ.種類別投資比率

種類	投資比率（%）
国債証券	27.77
地方債証券	41.37
特殊債券	27.34
合計	96.48

(注)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

日本株配当マザーファンド

投資状況

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株式	日本	3,691,793,850	96.23
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	―	144,459,823	3.77
合計(純資産総額)		3,836,253,673	100.00

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他の資産の投資状況

資産の種類	買建／売建	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株価指数先物取引	買建	日本	113,785,000	2.97

(注1)評価にあたっては、知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

(注2)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ.評価額上位銘柄明細

国／地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿価額(円) 単価	帳簿価額(円) 金額	評価額(円) 単価	評価額(円) 金額	投資比率(%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	26,400	6,635.00	175,164,000	6,932.00	183,004,800	4.77
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	50,900	2,179.55	110,939,095	2,685.00	136,666,500	3.56
日本	株式	三井物産	卸売業	65,000	1,551.33	100,836,450	1,803.00	117,195,000	3.05
日本	株式	信越化学工業	化学	8,300	11,470.00	95,201,000	13,685.00	113,585,500	2.96
日本	株式	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	249,900	425.76	106,397,424	416.10	103,983,390	2.71
日本	株式	三菱商事	卸売業	40,600	2,273.33	92,297,198	2,512.50	102,007,500	2.66
日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	34,400	2,844.39	97,847,016	2,917.50	100,362,000	2.62
日本	株式	村田製作所	電気機器	14,300	5,795.38	82,873,934	6,773.00	96,853,900	2.52
日本	株式	任天堂	その他製品	1,600	44,370.00	70,992,000	59,660.00	95,456,000	2.49
日本	株式	第一三共	医薬品	28,800	2,557.24	73,648,704	3,229.00	92,995,200	2.42
日本	株式	武田薬品工業	医薬品	22,500	3,562.00	80,145,000	3,744.00	84,240,000	2.20
日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	3,000	22,611.87	67,835,610	27,330.00	81,990,000	2.14
日本	株式	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	59,080	1,265.80	74,783,464	1,310.50	77,424,340	2.02
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	34,200	2,562.50	87,637,500	2,150.00	73,530,000	1.92
日本	株式	ＴＤＫ	電気機器	6,400	8,853.04	56,659,456	11,410.00	73,024,000	1.90
日本	株式	大和ハウス工業	建設業	26,500	2,709.47	71,800,955	2,697.50	71,483,750	1.86
日本	株式	日立製作所	電気機器	16,300	3,336.03	54,377,289	3,543.00	57,750,900	1.51
日本	株式	富士通	電気機器	4,000	10,362.01	41,448,040	14,340.00	57,360,000	1.50
日本	株式	アステラス製薬	医薬品	35,600	1,728.50	61,534,600	1,567.00	55,785,200	1.45
日本	株式	光通信	情報・通信業	2,200	21,244.97	46,738,934	24,980.00	54,956,000	1.43
日本	株式	三菱電機	電気機器	38,400	1,333.50	51,206,400	1,421.50	54,585,600	1.42
日本	株式	ディスコ	機械	2,100	23,448.01	49,240,821	25,410.00	53,361,000	1.39
日本	株式	Ｚホールディングス	情報・通信業	75,600	383.76	29,012,256	699.00	52,844,400	1.38
日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	11,200	4,914.66	55,044,192	4,600.00	51,520,000	1.34
日本	株式	ネットワンシステムズ	情報・通信業	10,700	3,064.68	32,792,076	4,780.00	51,146,000	1.33
日本	株式	第一生命ホールディングス	保険業	34,200	1,383.50	47,315,700	1,477.00	50,513,400	1.32

日本	株式	デクセリアルズ	化学	44,400	896.58	39,808,152	1,104.00	49,017,600	1.28
日本	株式	富士フイルムホールディングス	化学	9,400	5,395.20	50,714,880	5,185.00	48,739,000	1.27
日本	株式	アドバンテスト	電気機器	9,500	4,774.97	45,362,215	5,090.00	48,355,000	1.26
日本	株式	コーエーテクモホールディングス	情報・通信業	9,500	2,742.36	26,052,420	5,060.00	48,070,000	1.25

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ.種類別及び業種別の投資比率

種類	国内／外国	業種	投資比率（%）
株式	国内	鉱業	0.11
		建設業	3.22
		化学	5.77
		医薬品	6.07
		石油・石炭製品	0.71
		ゴム製品	0.57
		ガラス・土石製品	0.66
		鉄鋼	0.77
		非鉄金属	1.06
		機械	3.32
		電気機器	16.11
		輸送用機器	9.05
		その他製品	3.52
		電気・ガス業	0.70
		陸運業	1.01
		情報・通信業	11.34
		卸売業	9.28
		小売業	1.85
		銀行業	9.33
		証券、商品先物取引業	0.20
		保険業	3.71
		その他金融業	2.12
		不動産業	2.99
		サービス業	2.76
		小計	96.23
合計			96.23

(注)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該有価証券または当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

資産の種類	取引所	資産の名称	買建／売建	数量	通貨	帳簿価額（円）	評価金額（円）	投資比率（%）
株価指数先物取引	大阪取引所	ＴＯＰＩＸ先物	買建	7	円	114,715,850	113,785,000	2.97

(注1)評価にあたっては、知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

(注2)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

日本株中小型マザーファンド

投資状況

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株式	日本	5,205,174,900	95.47
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	―	246,735,515	4.53
合計(純資産総額)		5,451,910,415	100.00

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。

(注2)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ.評価額上位銘柄明細

国／地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿価額(円) 単価	帳簿価額(円) 金額	評価額(円) 単価	評価額(円) 金額	投資比率(%)
日本	株式	ビザスク	情報・通信業	38,100	1,363.02	51,931,240	3,700.00	140,970,000	2.59
日本	株式	エニグモ	情報・通信業	71,000	721.00	51,191,000	1,670.00	118,570,000	2.17
日本	株式	アウトソーシング	サービス業	115,400	906.64	104,627,334	968.00	111,707,200	2.05
日本	株式	ラクスル	情報・通信業	25,900	2,701.74	69,975,216	4,290.00	111,111,000	2.04
日本	株式	前田工繊	その他製品	40,200	1,961.00	78,832,200	2,735.00	109,947,000	2.02
日本	株式	メディアドゥ	情報・通信業	14,300	3,063.36	43,806,048	7,610.00	108,823,000	2.00
日本	株式	Ｓａｎｓａｎ	情報・通信業	15,800	4,335.27	68,497,266	6,790.00	107,282,000	1.97
日本	株式	横河ブリッジホールディングス	金属製品	52,800	1,814.00	95,779,200	1,950.00	102,960,000	1.89
日本	株式	ミライト・ホールディングス	建設業	63,200	1,335.61	84,410,552	1,608.00	101,625,600	1.86
日本	株式	物語コーポレーション	小売業	9,700	7,613.04	73,846,517	10,370.00	100,589,000	1.85

日本	株式	バリュエンスホールディングス	卸売業	46,800	1,602.24	74,984,832	2,100.00	98,280,000	1.80
日本	株式	シークス	卸売業	77,700	1,120.06	87,029,417	1,234.00	95,881,800	1.76
日本	株式	ヘリオス	医薬品	49,500	1,552.66	76,856,882	1,875.00	92,812,500	1.70
日本	株式	ＪＭＤＣ	情報・通信業	20,000	2,195.00	43,900,000	4,630.00	92,600,000	1.70
日本	株式	ソラスト	サービス業	67,300	992.70	66,809,335	1,374.00	92,470,200	1.70
日本	株式	東鉄工業	建設業	32,400	2,620.00	84,888,000	2,834.00	91,821,600	1.68
日本	株式	マネーフォワード	情報・通信業	11,900	4,520.00	53,788,000	7,580.00	90,202,000	1.65
日本	株式	ＳＨＩＦＴ	情報・通信業	5,700	7,030.00	40,071,000	15,760.00	89,832,000	1.65
日本	株式	クスリのアオキホールディングス	小売業	10,300	6,690.00	68,907,000	8,580.00	88,374,000	1.62
日本	株式	ＬＩＴＡＬＩＣＯ	サービス業	30,200	2,204.13	66,564,726	2,897.00	87,489,400	1.60
日本	株式	日本電子	電気機器	24,000	2,464.00	59,136,000	3,615.00	86,760,000	1.59
日本	株式	藤森工業	化学	19,700	2,532.00	49,880,400	4,340.00	85,498,000	1.57
日本	株式	アニコム　ホールディングス	保険業	78,400	770.00	60,368,000	1,068.00	83,731,200	1.54
日本	株式	フィックスターズ	情報・通信業	73,100	951.22	69,534,182	1,130.00	82,603,000	1.52
日本	株式	フルヤ金属	その他製品	12,800	4,960.00	63,488,000	6,170.00	78,976,000	1.45
日本	株式	ジンズホールディングス	小売業	9,400	6,342.19	59,616,586	8,280.00	77,832,000	1.43
日本	株式	ＳＲＥホールディングス	不動産業	21,100	2,035.29	42,944,619	3,660.00	77,226,000	1.42
日本	株式	ジャパンマテリアル	サービス業	50,500	1,203.00	60,751,500	1,467.00	74,083,500	1.36
日本	株式	日本光電工業	電気機器	21,400	3,180.00	68,052,000	3,460.00	74,044,000	1.36
日本	株式	ストライク	サービス業	11,800	3,735.00	44,073,000	6,150.00	72,570,000	1.33

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ.種類別及び業種別の投資比率

種類	国内／外国	業種	投資比率(%)
株式	国内	建設業	3.55
		食料品	1.19
		化学	7.84
		医薬品	2.83
		ガラス・土石製品	0.40
		金属製品	1.89
		機械	2.49
		電気機器	6.71
		精密機器	0.52
		その他製品	3.47
		情報・通信業	27.14
		卸売業	6.74

		小売業	11.19
		保険業	1.54
		不動産業	3.75
		サービス業	14.26
		小計	95.47
合計			95.47

(注)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該有価証券または当該業種の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

Ｊリートマザーファンド（M）

投資状況

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（%）
投資証券	日本	46,896,773,680	98.23
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	―	842,851,116	1.77
合計(純資産総額)		47,739,624,796	100.00

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ.評価額上位銘柄明細

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額(円) 単価	帳簿価額(円) 金額	評価額(円) 単価	評価額(円) 金額	投資比率(%)
日本	投資証券	日本ビルファンド投資法人	6,297	591,000	3,721,527,000	596,000	3,753,012,000	7.86
日本	投資証券	ジャパンリアルエステイト投資法人	6,603	539,000	3,559,017,000	538,000	3,552,414,000	7.44
日本	投資証券	大和ハウスリート投資法人	10,342	281,200	2,908,170,400	269,000	2,781,998,000	5.83
日本	投資証券	オリックス不動産投資法人	14,951	155,241.91	2,321,021,825	161,300	2,411,596,300	5.05
日本	投資証券	日本リテールファンド投資法人	13,940	147,931.88	2,062,170,416	162,400	2,263,856,000	4.74
日本	投資証券	ＧＬＰ投資法人	13,010	175,000	2,276,750,000	162,800	2,118,028,000	4.44
日本	投資証券	野村不動産マスターファンド投資法人	14,219	135,500	1,926,674,500	132,000	1,876,908,000	3.93
日本	投資証券	アクティビア・プロパティーズ投資法人	4,691	384,000	1,801,344,000	399,500	1,874,054,500	3.93

日本	投資証券	日本ロジスティクスファンド投資法人	5,706	287,200	1,638,763,200	301,500	1,720,359,000	3.60
日本	投資証券	日本プロロジスリート投資法人	4,701	355,500	1,671,205,500	355,500	1,671,205,500	3.50
日本	投資証券	日本プライムリアルティ投資法人	4,939	310,028.54	1,531,230,966	326,500	1,612,583,500	3.38
日本	投資証券	三井不動産ロジスティクスパーク投資法人	3,087	547,821.44	1,691,124,800	502,000	1,549,674,000	3.25
日本	投資証券	ラサールロジポート投資法人	8,568	184,400	1,579,939,200	176,200	1,509,681,600	3.16
日本	投資証券	ユナイテッド・アーバン投資法人	12,086	113,433.57	1,370,958,140	116,700	1,410,436,200	2.95
日本	投資証券	フロンティア不動産投資法人	3,562	325,500	1,159,431,000	358,000	1,275,196,000	2.67
日本	投資証券	プレミア投資法人	10,371	117,500	1,218,592,500	122,300	1,268,373,300	2.66
日本	投資証券	三菱地所物流リート投資法人	2,861	458,956.27	1,313,073,888	434,000	1,241,674,000	2.60
日本	投資証券	ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人	6,649	190,300	1,265,304,700	185,900	1,236,049,100	2.59
日本	投資証券	ジャパンエクセレント投資法人	9,537	116,158.48	1,107,803,426	122,900	1,172,097,300	2.46
日本	投資証券	グローバル・ワン不動産投資法人	9,590	96,033.25	920,958,867	101,100	969,549,000	2.03
日本	投資証券	インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人	66,167	13,478.02	891,800,242	14,540	962,068,180	2.02
日本	投資証券	伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人	5,927	157,500	933,502,500	147,000	871,269,000	1.83
日本	投資証券	ＳＯＳｉＬＡ物流リート投資法人	5,915	142,600	843,479,000	139,300	823,959,500	1.73
日本	投資証券	サンケイリアルエステート投資法人	8,021	92,400	741,140,400	99,100	794,881,100	1.67
日本	投資証券	産業ファンド投資法人	4,294	186,400	800,401,600	180,300	774,208,200	1.62
日本	投資証券	ＣＲＥロジスティクスファンド投資法人	4,741	160,500	760,930,500	156,000	739,596,000	1.55
日本	投資証券	ジャパン・ホテル・リート投資法人	12,176	44,550	542,440,800	51,700	629,499,200	1.32
日本	投資証券	アドバンス・レジデンス投資法人	1,652	317,000	523,684,000	311,000	513,772,000	1.08
日本	投資証券	投資法人みらい	12,500	39,023.96	487,799,531	39,800	497,500,000	1.04
日本	投資証券	日本アコモデーションファンド投資法人	727	651,000	473,277,000	607,000	441,289,000	0.92

(注1)国／地域は、発行体の所在地によって記載しております。
(注2)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ.種類別投資比率

種類	投資比率（%）
投資証券	98.23
合計	98.23

(注)投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

≪参考情報≫

交付目論見書に記載するファンドの運用実績

運用実績

当初設定日：2006年3月31日
作成基準日：2020年9月30日

基準価額・純資産の推移

※基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しております。
※上記グラフは作成基準日以前の直近10年間を表示しております。

基準価額	10,105円
純資産総額	15.98億円

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2020年1月	30円
2020年3月	30円
2020年5月	30円
2020年7月	30円
2020年9月	30円
直近1年間分配金合計額	180円
設定来分配金合計額	4,210円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

主要な資産の状況

マザーファンド	投資比率	上位組入銘柄	国/地域	種類	業種	利率	償還期限	実質投資比率
高金利外債マザーファンド	48.7%	BRCOL 2.25% 06/02/26	カナダ	地方債	-	2.250%	2026/06/02	8.7%
		EIB 1.5% 01/26/24	国際機関	特殊債	-	1.500%	2024/01/26	6.9%
		BRCOL 5.7% 06/18/29	カナダ	地方債	-	5.700%	2029/06/18	5.3%
日本株中小型マザーファンド	21.1%	ビザスク	日本	株式	情報・通信業	-	-	0.5%
		エニグモ	日本	株式	情報・通信業	-	-	0.5%
		アウトソーシング	日本	株式	サービス業	-	-	0.4%
日本株配当マザーファンド	20.2%	トヨタ自動車	日本	株式	輸送用機器	-	-	1.0%
		伊藤忠商事	日本	株式	卸売業	-	-	0.7%
		三井物産	日本	株式	卸売業	-	-	0.6%
Jリートマザーファンド(M)	9.7%	日本ビルファンド投資法人	日本	投資証券	-	-	-	0.8%
		ジャパンリアルエステイト投資法人	日本	投資証券	-	-	-	0.7%
		大和ハウスリート投資法人	日本	投資証券	-	-	-	0.6%

※投資比率及び実質投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)

※収益率は分配金(税引前)を再投資したものとして計算しております。
※2020年は年初から作成基準日までの収益率です。
※ファンドには、ベンチマークはありません。

記載された運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

最新の運用の内容等は、表紙に記載されている委託会社のホームページでご確認いただけます。

第２【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

＜申込手続＞

受益権取得申込者は、販売会社との間で、受益権の取引に関する契約を締結していただきます。

＜申込コース＞

当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」（※）の2つの申込方法があります。ただし、販売会社により取扱いコースが異なる場合があります。

※「分配金再投資コース」での受益権の取得申込者は、販売会社との間で、分配金再投資に関する契約を締結していただきます。

＜申込みの受付＞

お申込みの受付は、原則として午後3時までにお申込みが行われ、お申込みの受付に係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。なお、当該時間を過ぎてのお申込みは翌営業日の取扱いとさせていただきます。

＜申込単位＞

販売会社が定める単位とします（「分配金再投資コース」を選択された受益権の収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。）。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

＜申込価額＞

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

（注）分配金再投資に関する契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の申込価額は、各計算期間終了日の基準価額とします。

＜申込手数料＞

前記　第1ファンドの状況 4手数料等及び税金 (1)申込手数料をご覧ください。

＜申込代金の支払い＞

販売会社が定める期日までにお支払いください。

＜受付不可日＞

ありません。

＜申込受付の中止等＞

収益分配金を再投資する場合を除き、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は受益権の取得申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた取得申込みを取り消すことができます。

＜その他＞

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時に又はあらかじめ、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載又は記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載又は記録を行うことができます。委託会社は、分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載又は記録をするた

め社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定に従い、その備える振替口座簿への新たな記載又は記録を行います。受託会社は、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

＜問い合わせ先＞

上記手続きの詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。販売会社の詳細につきましては、下記の照会先までお問い合わせください。

（照会先）

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

ホームページ：https://www.smtam.jp/

フリーダイヤル：0120-668001

（受付時間は営業日の午前9時から午後5時までとします。）

2【換金（解約）手続等】

＜一部解約手続＞

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。委託会社は、一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。

＜一部解約の受付＞

一部解約の実行の請求の受付は、原則として午後3時までにお申込みが行われ、お申込みの受付に係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日の受付とします。なお、当該時間を過ぎての受付は翌営業日の取扱いとさせていただきます。

＜一部解約単位＞

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

＜解約価額＞

一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額から、当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た解約時における信託財産留保額を控除した価額（以下「解約価額」といいます。）とします。
解約価額は委託会社の営業日において日々算出されます。日々の解約価額は、販売会社へお問い合わせください。また、解約価額は原則として、委託会社ホームページ（https://www.smtam.jp/）でご覧いただけます。

＜一部解約代金の支払い＞

受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から販売会社において当該受益者に支払われます。

＜受付不可日＞

ありません。

＜一部解約受付の中止等＞

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事

情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することができます。
一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして上記＜解約価額＞の規定に準じて計算された価額とします。

＜一部解約の制限＞
当ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の一部解約には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。

＜その他＞
一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載又は記録が行われます。

＜問い合わせ先＞
上記手続きの詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。販売会社の詳細につきましては、下記の照会先までお問い合わせください。
（照会先）
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
ホームページ：https://www.smtam.jp/
フリーダイヤル：0120-668001
（受付時間は営業日の午前9時から午後5時までとします。）

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

＜基準価額の算出方法＞
基準価額とは、投資信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券及び借入公社債を除きます。）を法令及び一般社団法人投資信託協会規則に従って時価又は一部償却原価法により評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示することがあります。

＜基準価額の算出頻度＞
基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

＜主要な投資対象資産の評価方法＞
A．親投資信託受益証券（高金利外債マザーファンド、日本株配当マザーファンド、日本株中小型マザーファンド、Ｊリートマザーファンド（M））
計算日の基準価額で評価します。
B．国内上場株式、国内上場投信

原則として計算日の金融商品取引所の最終相場で評価します。

C．公社債等

計算日（※）における次のイ．からハ．までに掲げるいずれかの価額で評価します。

イ．日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）

ロ．金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除きます。）

ハ．価格情報会社の提供する価額

※外国の公社債については、計算日に知りうる直近の日とします。

外貨建資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算し、為替予約の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

＜基準価額の照会方法＞

基準価額は、販売会社又は委託会社へお問い合わせください。販売会社の詳細につきましては、下記に記載の照会先までお問い合わせください。また、基準価額は原則として、委託会社ホームページ（https://www.smtam.jp/）でご覧いただけます。

（照会先）

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

ホームページ：https://www.smtam.jp/

フリーダイヤル：0120-668001

（受付時間は営業日の午前9時から午後5時までとします。）

（２）【保管】

該当事項はありません。

（３）【信託期間】

無期限とします。（2006年 3月31日設定）

ただし、下記「(5)その他　＜投資信託契約の終了（償還）と手続き＞」の事項に該当する場合は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

（４）【計算期間】

当ファンドの計算期間は、毎年１月11日から３月10日まで、３月11日から５月10日まで、５月11日から７月10日まで、７月11日から９月10日まで、９月11日から11月10日まで及び11月11日から翌年１月10日までとすることを原則とします。ただし、第１計算期間は2006年３月31日から2006年５月10日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

（５）【その他】

＜投資信託契約の終了（償還）と手続き＞

(1)投資信託契約の終了（ファンドの繰上償還）

①委託会社は、以下の場合には法令及び投資信託契約に定める手続きに従い、受託会社と合意の

うえ、この投資信託契約を解約し信託を終了（繰上償還）させることができます。

・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合

・投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合

・やむを得ない事情が発生した場合

②委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、ファンドを繰上償還させます。

③委託会社は、監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したとき又は業務を廃止したときは、原則として、ファンドを繰上償還させます。

④委託会社は、上記の場合においてファンドを繰上償還させる場合は、あらかじめ、その旨を監督官庁に届け出ます。

(2)投資信託契約の終了（ファンドの繰上償還）における公告等の手続き

委託会社は上記（1）①によりファンドの繰上償還を行おうとする場合、以下の手続きで行います。

①委託会社は、ファンドの繰上償還について、あらかじめ、ファンドを繰上償還しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

②上記①の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

③上記②の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、ファンドの繰上償還を行いません。

④委託会社は、このファンドの繰上償還を行わないこととしたときは、ファンドの繰上償還を行わない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

⑤ファンドの繰上償還において、上記②から④までの規定は、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記②の一定の期間が一月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

＜投資信託約款の変更と重大な投資信託約款の変更手続き＞

(1)投資信託約款の変更

委託会社は、以下の場合には法令及び投資信託約款に定める手続きに従い、受託会社と合意のうえ、この投資信託約款を変更することができます。

・受益者の利益のため必要と認めるとき

・やむを得ない事情が発生したとき

委託会社は、投資信託約款の変更を行う場合は、あらかじめ、その旨及びその内容を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、監督官庁の命令に基いて、投資信託約款を変更しようとするときは、本手続に従います。

(2)重大な投資信託約款の変更における公告等の手続き

委託会社はファンドの約款変更のうち重大な内容の変更（以下「重大な約款変更」といいます。）を行おうとする場合、以下の手続きで行います。

①委託会社は、ファンドの重大な約款変更について、あらかじめ、変更をしようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付

したときは、原則として、公告を行いません。

②上記①の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

③上記②の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、当該約款変更を行いません。

④委託会社は、当該約款変更を行わないこととしたときは、約款変更を行わない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

＜受託会社の辞任及び解任に伴う取扱い＞

①受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に背いた場合、又はその他重要な事由があるときは、委託会社又は受益者は、裁判所に受託会社の解任を申し立てることができます。受託会社が辞任した場合、又は裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、上記＜投資信託約款の変更と重大な投資信託約款の変更手続き＞に従い、新受託会社を選任します。

②委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はファンドを償還させます。

＜反対者の買取請求権＞

ファンドの償還又は重大な約款変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、販売会社を経由して受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、投資信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。

＜運用報告書＞

委託会社は、毎年3月及び9月の決算時並びに償還時に交付運用報告書及び運用報告書（全体版）を作成し、交付運用報告書を販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。

＜関係法人との契約の更改手続き＞

・委託会社が販売会社と締結している募集・販売等に関する契約

当該契約の有効期間は、契約満了日の3ヶ月前までに委託会社及び販売会社から別段の意思表示のないときは、自動的に1年間延長され、その後も同様とします。

＜公告＞

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

＜混蔵寄託＞

金融機関又は第一種金融商品取引業者等（金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行う者及び外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下同じ。）から、売買代金及び償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書又はコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関又は第一種金融商品取引業者等が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関又は第一種金融商品取引業者等の名義で混蔵寄託することができるものとします。

＜投資信託財産の登記等及び記載等の留保等＞

①信託の登記又は登録をすることができる投資信託財産については、信託の登記又は登録をすることとします。ただし、受託会社が認める場合は、信託の登記又は登録を留保することがありま

す。

②上記①ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託会社又は受託会社が必要と認めるときは、速やかに登記又は登録をするものとします。

③投資信託財産に属する旨の記載又は記録をすることができる投資信託財産については、投資信託財産に属する旨の記載又は記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託会社が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

④動産（金銭を除きます。）については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

4【受益者の権利等】

(1)収益分配金に対する請求権

①受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

②収益分配金は、毎計算期間終了日（決算日）において振替機関等の振替口座簿に記載又は記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載又は記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。

③上記②の規定にかかわらず、収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎決算日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。この場合、販売会社は、分配金再投資に関する契約に基づき、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、振替口座簿に記載又は記録されます。

④上記②に規定する収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

⑤受益者が収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(2)償還金に対する請求権

①受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。

②償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載又は記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載又は記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に、原則として償還日から起算して5営業日までに支払いを開始します。

③償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

④受益者が償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(3)換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行の請求をすることにより換金する権利を有します。

詳細につきましては、上記「2換金（解約）手続等」をご参照ください。

(4)帳簿閲覧・謄写請求権

受益者は委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの投資信託財産に関する帳簿書類の閲覧又は謄写を請求することができます。

第３【ファンドの経理状況】

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則(昭和38年大蔵省令第59号)」並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則(平成12年総理府令第133号)」に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。

(3)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第29特定期間(2020年3月11日から2020年9月10日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

１【財務諸表】

【３資産バランスオープンアルファ】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第28特定期間 （2020年 3月10日現在）	第29特定期間 （2020年 9月10日現在）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	9,665,455	14,305,585
親投資信託受益証券	1,475,861,486	1,593,195,217
未収入金	4,000,000	-
流動資産合計	1,489,526,941	1,607,500,802
資産合計	1,489,526,941	1,607,500,802
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	4,929,992	4,770,339
未払解約金	654,354	-
未払受託者報酬	209,501	207,876
未払委託者報酬	3,381,898	3,355,726
未払利息	23	39
その他未払費用	14,945	14,827
流動負債合計	9,190,713	8,348,807
負債合計	9,190,713	8,348,807
純資産の部		
元本等		
元本	1,643,330,705	1,590,113,063
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△162,994,477	9,038,932
（分配準備積立金）	126,996,126	126,224,091
元本等合計	1,480,336,228	1,599,151,995
純資産合計	1,480,336,228	1,599,151,995
負債純資産合計	1,489,526,941	1,607,500,802

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第28特定期間 自 2019年 9月11日 至 2020年 3月10日	第29特定期間 自 2020年 3月11日 至 2020年 9月10日
営業収益		
受取利息	4	28
有価証券売買等損益	△70,795,180	193,533,731
営業収益合計	△70,795,176	193,533,759
営業費用		
支払利息	1,234	1,959
受託者報酬	643,819	592,944
委託者報酬	10,393,074	9,571,857
その他費用	45,931	42,299
営業費用合計	11,084,058	10,209,059
営業利益又は営業損失（△）	△81,879,234	183,324,700
経常利益又は経常損失（△）	△81,879,234	183,324,700
当期純利益又は当期純損失（△）	△81,879,234	183,324,700
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	419,438	567,566
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△67,925,700	△162,994,477
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,375,000	4,405,159
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,375,000	4,405,159
剰余金減少額又は欠損金増加額	116,960	639,478
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	116,960	639,478
分配金	15,028,145	14,489,406
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△162,994,477	9,038,932

（３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。

（貸借対照表に関する注記）

	第28特定期間 (2020年 3月10日現在)		第29特定期間 (2020年 9月10日現在)	
１．特定期間の末日における受益権の総数		1,643,330,705口		1,590,113,063口
２．「投資信託財産の計算に関する規則(平成12年総理府令第133号)」第55条の6第10号に規定する額	元本の欠損	162,994,477円	元本の欠損	－円
３．特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額	0.9008円	1口当たり純資産額	1.0057円
	(1万口当たり純資産額)	(9,008円)	(1万口当たり純資産額)	(10,057円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第28特定期間 自 2019年 9月11日 至 2020年 3月10日	第29特定期間 自 2020年 3月11日 至 2020年 9月10日

分配金の計算過程

第82期

自 2019年 9月11日

至 2019年11月11日

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	9,549,746円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	24,099,033円
分配準備積立金額	D	130,049,968円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	163,698,747円
当ファンドの期末残存口数	F	1,695,426,369口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	965円
1万口当たり分配金額	H	30円

分配金の計算過程

第85期

自 2020年 3月11日

至 2020年 5月11日

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	9,485,210円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	23,885,837円
分配準備積立金額	D	125,595,289円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	158,966,336円
当ファンドの期末残存口数	F	1,627,559,209口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	976円
1万口当たり分配金額	H	30円

第28特定期間 自 2019年 9月11日 至 2020年 3月10日	第29特定期間 自 2020年 3月11日 至 2020年 9月10日

収益分配金金額	I=F×H/10,000	5,086,279円

第83期

自 2019年11月12日

至 2020年 1月10日

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	5,313,221円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	23,979,502円
分配準備積立金額	D	132,384,203円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	161,676,926円
当ファンドの期末残存口数	F	1,670,624,748口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	967円
1万口当たり分配金額	H	30円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	5,011,874円

第84期

自 2020年 1月11日

至 2020年 3月10日

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	1,608,946円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	23,877,799円
分配準備積立金額	D	130,317,172円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	155,803,917円
当ファンドの期末残存口数	F	1,643,330,705口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	948円
1万口当たり分配金額	H	30円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	4,929,992円

収益分配金金額	I=F×H/10,000	4,882,677円

第86期

自 2020年 5月12日

至 2020年 7月10日

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	4,446,584円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	24,283,744円
分配準備積立金額	D	128,392,840円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	157,123,168円
当ファンドの期末残存口数	F	1,612,130,249口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	974円
1万口当たり分配金額	H	30円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	4,836,390円

第87期

自 2020年 7月11日

至 2020年 9月10日

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	4,823,230円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	－円
収益調整金額	C	24,089,734円
分配準備積立金額	D	126,171,200円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	155,084,164円
当ファンドの期末残存口数	F	1,590,113,063口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	975円
1万口当たり分配金額	H	30円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	4,770,339円

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

	第29特定期間 自 2020年 3月11日 至 2020年 9月10日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。

	第29特定期間 自 2020年 3月11日 至 2020年 9月10日
2.金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3.金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用リスク管理委員会及び経営会議に報告します。 内部監査部は、業務執行に係る内部管理態勢の適切性・有効性を独立した立場から検証・評価し、監査結果等を取締役会に報告するとともに、指摘事項の是正・改善状況の事後点検を行います。

２．金融商品の時価等に関する事項

	第29特定期間 (2020年 9月10日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1)有価証券 売買目的有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）
元本の移動

区分	第28特定期間 自 2019年 9月11日 至 2020年 3月10日	第29特定期間 自 2020年 3月11日 至 2020年 9月10日
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	1,757,217,359円	1,643,330,705円
期中追加設定元本額	8,847,892円	12,523,952円
期中一部解約元本額	122,734,546円	65,741,594円

（有価証券に関する注記）
売買目的有価証券

種類	第28特定期間 （2020年 3月10日現在）	第29特定期間 （2020年 9月10日現在）
	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△182,299,196	68,603,049
合計	△182,299,196	68,603,049

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

第１　有価証券明細表
(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

種類	銘　柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	Ｊリートマザーファンド（M）	53,783,190	154,454,565	
	高金利外債マザーファンド	441,862,861	790,448,472	

	日本株配当マザーファンド	167,774,100	323,955,009	
	日本株中小型マザーファンド	95,522,522	324,337,171	
合計		758,942,673	1,593,195,217	

(注)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第２　信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３　デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは親投資信託受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上されている親投資信託受益証券の状況は次のとおりであります。
なお、以下は参考情報であり、監査意見の対象外であります。

高金利外債マザーファンド

貸借対照表

	2020年 9月10日現在
項目	金額（円）
資産の部	
流動資産	
預金	117,031,994
コール・ローン	400,312,774
国債証券	5,519,515,781
地方債証券	8,176,139,549
特殊債券	5,523,826,255
未収入金	145,856,374
未収利息	115,928,593
前払費用	899,200
流動資産合計	19,999,510,520
資産合計	19,999,510,520
負債の部	
流動負債	
未払解約金	5,936,954
未払利息	1,091
流動負債合計	5,938,045
負債合計	5,938,045
純資産の部	
元本等	
元本	11,176,459,848
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	8,817,112,627
元本等合計	19,993,572,475
純資産合計	19,993,572,475
負債純資産合計	19,999,510,520

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

	2020年 9月10日現在
1.有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券 移動平均法(買付約定後、最初の利払日までは個別法)に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引業者等の提示する価額、価格情報会社の提供する価額又は業界団体が発表する売買参考統計値等で評価しております。
2.デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、わが国における計算日又は計算日に知りうる直近の日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3.外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	投資信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日又は計算日に知りうる直近の日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。 なお、外貨建資産等については、「投資信託財産の計算に関する規則(平成12年総理府令第133号)」第60条の規定に基づき、通貨の種類ごとに勘定を設けて、邦貨建資産等と区分する方法を採用しております。従って、外貨の売買については、同規則第61条の規定により処理し、為替差損益を算定しております。
4.収益及び費用の計上基準	為替予約取引による為替差損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

		2020年 9月10日現在
1.	計算期間の末日における受益権の総数	11,176,459,848口
2.	計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額　1.7889円 (1万口当たり純資産額)　(17,889円)

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。

	2020年 9月10日現在
2.金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。 また、当ファンドは、ファンド運用の効率化を図ることを目的として為替予約取引を行っております。当該デリバティブ取引に係る主要なリスクは、為替相場の変動による価格変動リスク及び取引相手の信用状況の変動により損失が発生する信用リスクであります。
3.金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用リスク管理委員会及び経営会議に報告します。 内部監査部は、業務執行に係る内部管理態勢の適切性・有効性を独立した立場から検証・評価し、監査結果等を取締役会に報告するとともに、指摘事項の是正・改善状況の事後点検を行います。

2．金融商品の時価等に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1)有価証券 売買目的有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

区分	2020年 9月10日現在
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2020年 3月11日
期首元本額	11,976,913,641円
期中追加設定元本額	12,883,335円
期中一部解約元本額	813,337,128円
期末元本額	11,176,459,848円
期末元本額の内訳	
高金利ソブリンオープン	6,815,647,033円
３資産バランスオープン	3,268,934,759円
３資産バランスオープンアルファ	441,862,861円
高金利海外債券ファンド（適格機関投資家専用）	650,015,195円

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	2020年 9月10日現在
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
国債証券	274,639,450
地方債証券	408,822,151
特殊債券	170,406,905
合計	853,868,506

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、「高金利外債マザーファンド」の期首日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間に対応する金額であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

附属明細表

第１　有価証券明細表
(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

種類	通貨	銘　柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	アメリカドル	T 1.5% 02/15/30	3,800,000.00	4,097,171.88	
		T 3.125% 05/15/21	6,100,000.00	6,223,787.11	
		T 3.125% 08/15/44	6,680,000.00	9,098,890.65	
		T 5.375% 02/15/31	400,000.00	589,937.50	
		T 6.25% 08/15/23	1,700,000.00	2,003,343.75	
	アメリカドル 小計		18,680,000.00	22,013,130.89 (2,338,234,763)	
	カナダドル	CAN 0.75% 09/01/21	1,000,000.00	1,005,420.00	
		CAN 4.0% 06/01/41	700,000.00	1,096,595.50	
		CAN 5% 06/01/37	700,000.00	1,150,625.00	
	カナダドル 小計		2,400,000.00	3,252,640.50 (262,488,088)	
	イギリスポンド	UKT 4.25% 12/07/49	3,710,000.00	7,067,735.50	
	イギリスポンド 小計		3,710,000.00	7,067,735.50 (975,135,466)	
	ノルウェークローネ	NGB 1.375% 08/19/30	76,000,000.00	81,443,500.00	
		NGB 1.75% 09/06/29	71,000,000.00	78,112,425.00	
	ノルウェークローネ 小計		147,000,000.00	159,555,925.00 (1,881,164,355)	
	オーストラリアドル	ACGB 3.75% 04/21/37	600,000.00	809,706.00	
	オーストラリアドル 小計		600,000.00	809,706.00 (62,493,109)	
国債証券合計				5,519,515,781 (5,519,515,781)	
地方債証券	アメリカドル	BRCOL 2.25% 06/02/26	30,000,000.00	32,703,000.00	
	アメリカドル 小計		30,000,000.00	32,703,000.00 (3,473,712,660)	
	カナダドル	BRCOL 2.85% 06/18/25	6,000,000.00	6,605,220.00	
		BRCOL 3.3% 12/18/23	4,000,000.00	4,361,360.00	
		BRCOL 4.95% 06/18/40	4,000,000.00	6,061,320.00	
		BRCOL 5.7% 06/18/29	19,500,000.00	26,799,922.50	
			33,500,000.00	43,827,822.50	

	カナダドル 小計			(3,536,905,275)	
	オーストラリアドル	NSWTC 2% 03/20/31	2,000,000.00	2,111,650.00	
		TCV 2.25% 11/20/34	2,000,000.00	2,107,280.00	
		TCV 3% 10/20/28	1,000,000.00	1,150,250.00	
		TCV 4.25% 12/20/32	6,500,000.00	8,443,272.50	
		TCV 5.5% 11/17/26	1,000,000.00	1,288,890.00	
	オーストラリアドル 小計		12,500,000.00	15,101,342.50 (1,165,521,614)	
地方債証券合計				8,176,139,549 (8,176,139,549)	
特殊債券	イギリスポンド	EIB 4.5% 06/07/29	5,100,000.00	6,835,071.00	
	イギリスポンド 小計		5,100,000.00	6,835,071.00 (943,034,745)	
	ノルウェークローネ	EIB 1.5% 01/26/24	238,000,000.00	246,194,340.00	
	ノルウェークローネ 小計		238,000,000.00	246,194,340.00 (2,902,631,268)	
	オーストラリアドル	EIB 3.1% 08/17/26	12,000,000.00	13,590,540.00	
		IADB 4.75% 08/27/24	4,000,000.00	4,657,920.00	
		IFC 3.15% 06/26/29	3,000,000.00	3,495,000.00	
	オーストラリアドル 小計		19,000,000.00	21,743,460.00 (1,678,160,242)	
特殊債券合計				5,523,826,255 (5,523,826,255)	
合計				19,219,481,585 (19,219,481,585)	

有価証券明細表注記

1.通貨ごとの小計の欄における(　)内は、邦貨換算額であります。

2.合計金額欄の記載は、邦貨額であります。(　)内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

3.通貨の表示は、外貨についてはその通貨の単位、邦貨については円単位で表示しております。

4.外貨建有価証券の通貨別内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカドル	国債証券　5銘柄	40.2%	12.2%
	地方債証券　1銘柄	59.8%	18.1%
カナダドル	国債証券　3銘柄	6.9%	1.4%
	地方債証券　4銘柄	93.1%	18.4%
イギリスポンド	国債証券　1銘柄	50.8%	5.1%
	特殊債券　1銘柄	49.2%	4.9%
ノルウェークローネ	国債証券　2銘柄	39.3%	9.8%
	特殊債券　1銘柄	60.7%	15.1%
オーストラリアドル	国債証券　1銘柄	2.2%	0.3%

	地方債証券　5銘柄	40.1%	6.1%
	特殊債券　3銘柄	57.7%	8.7%

(注)時価比率は、通貨ごとの有価証券の合計金額に対する比率であります。

第２　信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３　デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

日本株配当マザーファンド

貸借対照表

	2020年 9月10日現在
項目	金額（円）
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	72,751,352
株式	3,809,360,200
未収入金	48,110,233
未収配当金	6,904,000
前払金	504,000
差入委託証拠金	3,680,000
流動資産合計	3,941,309,785
資産合計	3,941,309,785
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	506,200
未払金	47,924,639
未払解約金	2,935,972
未払利息	198
流動負債合計	51,367,009
負債合計	51,367,009
純資産の部	
元本等	
元本	2,014,559,939
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	1,875,382,837
元本等合計	3,889,942,776
純資産合計	3,889,942,776
負債純資産合計	3,941,309,785

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

	2020年 9月10日現在
1.有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所等における計算日又は計算日に知りうる直近の日の最終相場(最終相場のないものについては、それに準じる価額)又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2.デリバティブの評価基準及び評価方法	先物取引 株価指数先物取引 個別法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所等の発表する計算日又は計算日に知りうる直近の日の清算値段によっております。 当ファンドにおける派生商品評価勘定は、当該先物取引に係るものであります。
3.収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 株式は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 (2)派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

		2020年 9月10日現在
1．	計算期間の末日における受益権の総数	2,014,559,939口
2．	計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 1.9309円 (1万口当たり純資産額) (19,309円)

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。

	2020年 9月10日現在
2 .金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、価格変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。 また、当ファンドは、ファンド運用の効率化を図ることを目的として株価指数先物取引を行っております。当該デリバティブ取引に係る主要なリスクは、株価の変動による価格変動リスクであります。
3 .金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用リスク管理委員会及び経営会議に報告します。 内部監査部は、業務執行に係る内部管理態勢の適切性・有効性を独立した立場から検証・評価し、監査結果等を取締役会に報告するとともに、指摘事項の是正・改善状況の事後点検を行います。

２．金融商品の時価等に関する事項

	2020年 9月10日現在
1 .貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 .時価の算定方法	(1)有価証券 売買目的有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 「(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3 .金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は契約上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

区分	2020年 9月10日現在
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2020年 3月11日
期首元本額	11,015,352,478円
期中追加設定元本額	512,009,602円
期中一部解約元本額	9,512,802,141円
期末元本額	2,014,559,939円
期末元本額の内訳	
日本株配当オープン	980,247,322円
３資産バランスオープン	866,538,517円
３資産バランスオープンアルファ	167,774,100円

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	2020年 9月10日現在
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	410,275,871
合計	410,275,871

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、「日本株配当マザーファンド」の期首日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間に対応する金額であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

株式関連

（2020年 9月10日現在）

区分	種類	契約額等(円)	うち1年超	時価(円)	評価損益(円)
市場取引	株価指数先物取引 買建	64,904,000	－	64,400,000	△504,000
合計		64,904,000	－	64,400,000	△504,000

(注)1.時価の算定方法

株価指数先物取引の時価については、金融商品取引所等の発表する計算日又は計算日に知りうる直近の日の清算値段で評価しております。

2.株価指数先物取引の残高は、契約金額ベースで表示しております。

3.契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

※上記取引でヘッジ会計が適用されているものはありません。

附属明細表

第１　有価証券明細表

(1)株式

銘　柄	株式数(株)	評価額		備考
		単価(円)	金額(円)	
国際石油開発帝石	36,000	636.90	22,928,400	
コムシスホールディングス	7,800	2,933.00	22,877,400	
西松建設	1,100	2,008.00	2,208,800	
大和ハウス工業	25,700	2,941.00	75,583,700	
協和エクシオ	10,200	2,690.00	27,438,000	
信越化学工業	8,400	13,880.00	116,592,000	
富士フイルムホールディングス	9,600	4,999.00	47,990,400	
ポーラ・オルビスホールディングス	5,200	2,011.00	10,457,200	
デクセリアルズ	45,200	1,093.00	49,403,600	
武田薬品工業	22,900	3,868.00	88,577,200	
アステラス製薬	36,200	1,610.00	58,282,000	
第一三共	9,800	9,464.00	92,747,200	
ＥＮＥＯＳホールディングス	73,600	411.00	30,249,600	
日本製鉄	26,900	1,164.00	31,311,600	
住友電気工業	35,000	1,277.50	44,712,500	
牧野フライス製作所	7,100	4,035.00	28,648,500	
ソディック	28,000	757.00	21,196,000	
ディスコ	2,300	23,810.00	54,763,000	
スター精密	16,300	1,403.00	22,868,900	
日立製作所	16,600	3,713.00	61,635,800	
三菱電機	39,100	1,482.50	57,965,750	
富士電機	12,500	3,525.00	44,062,500	
ＩＤＥＣ	7,600	1,884.00	14,318,400	
日本電気	8,200	5,620.00	46,084,000	

富士通	4,900	13,470.00	66,003,000	
ＴＤＫ	6,500	11,760.00	76,440,000	
アズビル	12,400	3,410.00	42,284,000	
アドバンテスト	10,500	4,915.00	51,607,500	
村田製作所	14,500	6,596.00	95,642,000	
東京エレクトロン	3,300	25,590.00	84,447,000	
デンソー	9,900	4,525.00	44,797,500	
トヨタ自動車	29,100	6,955.00	202,390,500	
アイシン精機	11,400	3,620.00	41,268,000	
本田技研工業	13,100	2,668.50	34,957,350	
ＳＵＢＡＲＵ	17,900	2,216.00	39,666,400	
ピジョン	8,500	4,830.00	41,055,000	
任天堂	1,600	59,030.00	94,448,000	
大阪瓦斯	13,300	2,036.00	27,078,800	
西日本旅客鉄道	5,500	5,712.00	31,416,000	
コーエーテクモホールディングス	9,700	4,270.00	41,419,000	
Ｚホールディングス	76,900	634.00	48,754,600	
トレンドマイクロ	6,300	6,390.00	40,257,000	
伊藤忠テクノソリューションズ	9,600	3,860.00	37,056,000	
ネットワンシステムズ	12,100	4,190.00	50,699,000	
日本電信電話	36,400	2,358.00	85,831,200	
ＫＤＤＩ	13,400	2,949.00	39,516,600	
ソフトバンク	24,600	1,314.50	32,336,700	
光通信	2,200	23,950.00	52,690,000	
萩原電気ホールディングス	1,100	2,107.00	2,317,700	
伊藤忠商事	54,600	2,766.00	151,023,600	
三井物産	70,100	1,940.00	135,994,000	
三菱商事	43,500	2,568.50	111,729,750	
ＤＣＭホールディングス	28,000	1,248.00	34,944,000	
セブン＆アイ・ホールディングス	9,800	3,350.00	32,830,000	
三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	266,900	437.40	116,742,060	
三井住友フィナンシャルグループ	36,800	3,090.00	113,712,000	
中国銀行	32,600	971.00	31,654,600	
伊予銀行	64,400	685.00	44,114,000	
みずほフィナンシャルグループ	643,100	141.10	90,741,410	
大和証券グループ本社	17,400	465.20	8,094,480	
第一生命ホールディングス	34,800	1,562.00	54,357,600	
東京海上ホールディングス	11,400	4,932.00	56,224,800	
Ｔ＆Ｄホールディングス	39,700	1,128.00	44,781,600	
オリックス	28,000	1,372.00	38,416,000	
日本取引所グループ	15,800	2,914.00	46,041,200	
野村不動産ホールディングス	18,000	2,127.00	38,286,000	

パーク２４	7,600	1,816.00	13,801,600	
三井不動産	21,200	1,977.00	41,912,400	
東京建物	20,000	1,364.00	27,280,000	
電通グループ	7,100	3,040.00	21,584,000	
りらいあコミュニケーションズ	17,800	1,267.00	22,552,600	
テクノプロ・ホールディングス	5,500	6,140.00	33,770,000	
ベルシステム２４ホールディングス	12,800	1,679.00	21,491,200	
合　計	2,352,900		3,809,360,200	

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第２　信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３　デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

注記表(デリバティブ取引に関する注記)に記載したとおりであります。

日本株中小型マザーファンド

貸借対照表

	2020年 9月10日現在
項目	金額（円）
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	272,641,586
株式	4,859,775,900
未収入金	13,967,516
未収配当金	4,896,500
流動資産合計	5,151,281,502
資産合計	5,151,281,502
負債の部	
流動負債	
未払金	25,361,738
未払解約金	244,809
未払利息	743
流動負債合計	25,607,290
負債合計	25,607,290
純資産の部	
元本等	
元本	1,509,602,705
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	3,616,071,507
元本等合計	5,125,674,212
純資産合計	5,125,674,212

	2020年 9月10日現在
項目	金額（円）
負債純資産合計	5,151,281,502

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

	2020年 9月10日現在
1.有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所等における計算日又は計算日に知りうる直近の日の最終相場(最終相場のないものについては、それに準じる価額)又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	受取配当金 株式は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

		2020年 9月10日現在
1.	計算期間の末日における受益権の総数	1,509,602,705口
2.	計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 3.3954円 (1万口当たり純資産額) (33,954円)

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、価格変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。

	2020年 9月10日現在
3.金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用リスク管理委員会及び経営会議に報告します。 内部監査部は、業務執行に係る内部管理態勢の適切性・有効性を独立した立場から検証・評価し、監査結果等を取締役会に報告するとともに、指摘事項の是正・改善状況の事後点検を行います。

２．金融商品の時価等に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1)有価証券 売買目的有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）
元本の移動

区分	2020年 9月10日現在
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2020年 3月11日
期首元本額	1,865,619,369円
期中追加設定元本額	92,542,898円
期中一部解約元本額	448,559,562円
期末元本額	1,509,602,705円
期末元本額の内訳	
３資産バランスオープンアルファ	95,522,522円
ＳＭＴＡＭ日本株中小型ファンド（適格機関投資家専用）	1,414,080,183円

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	2020年 9月10日現在
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	1,074,403,072
合計	1,074,403,072

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、「日本株中小型マザーファンド」の期首日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間に対応する金額であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

附属明細表

第１　有価証券明細表

(1)株式

銘　柄	株式数(株)	評価額		備考
		単価(円)	金額(円)	
ミライト・ホールディングス	63,200	1,529.00	96,632,800	
東鉄工業	32,400	2,674.00	86,637,600	
寿スピリッツ	2,200	5,110.00	11,242,000	
Ｓ　Ｆｏｏｄｓ	18,100	2,940.00	53,214,000	
竹本容器	45,800	977.00	44,746,600	
新日本製薬	16,100	2,403.00	38,688,300	
エステー	24,700	2,147.00	53,030,900	

メック	28,800	1,812.00	52,185,600	
タカラバイオ	19,700	2,773.00	54,628,100	
クミアイ化学工業	62,700	1,007.00	63,138,900	
藤森工業	19,700	4,080.00	80,376,000	
ＪＣＲファーマ	2,400	11,660.00	27,984,000	
ダイト	7,000	3,340.00	23,380,000	
ヘリオス	49,500	1,866.00	92,367,000	
モダリス	11,600	2,760.00	32,016,000	
神島化学工業	23,700	720.00	17,064,000	
横河ブリッジホールディングス	52,800	1,914.00	101,059,200	
ＮＩＴＴＯＫＵ	8,500	3,390.00	28,815,000	
オプトラン	27,400	2,077.00	56,909,800	
ヒラノテクシード	35,400	1,380.00	48,852,000	
スミダコーポレーション	68,000	711.00	48,348,000	
日本光電工業	21,400	3,475.00	74,365,000	
イリソ電子工業	14,400	4,285.00	61,704,000	
ケル	20,000	836.00	16,720,000	
日本セラミック	20,700	2,677.00	55,413,900	
日本電子	24,000	3,040.00	72,960,000	
芝浦電子	10,200	2,307.00	23,531,400	
インターアクション	14,600	1,769.00	25,827,400	
前田工繊	40,200	2,557.00	102,791,400	
フルヤ金属	12,800	6,370.00	81,536,000	
アイスタイル	68,100	310.00	21,111,000	
エニグモ	71,000	1,610.00	114,310,000	
メディアドゥ	14,300	7,090.00	101,387,000	
フィックスターズ	73,100	1,030.00	75,293,000	
ＦＦＲＩセキュリティ	11,500	2,554.00	29,371,000	
ＳＨＩＦＴ	5,700	12,320.00	70,224,000	
インターネットイニシアティブ	13,700	4,190.00	57,403,000	
ユーザベース	3,300	3,145.00	10,378,500	
マクロミル	33,800	804.00	27,175,200	
ＰＫＳＨＡ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ	25,900	2,489.00	64,465,100	
マネーフォワード	11,900	7,300.00	86,870,000	
ニューラルポケット	2,700	7,300.00	19,710,000	
ラクスル	24,900	3,595.00	89,515,500	
チームスピリット	11,200	2,042.00	22,870,400	
イーソル	37,000	1,183.00	43,771,000	
サーバーワークス	6,400	6,660.00	42,624,000	
Ｓａｎｓａｎ	16,600	5,810.00	96,446,000	
ＢＡＳＥ	4,200	9,780.00	41,076,000	
ＪＭＤＣ	10,000	7,900.00	79,000,000	

ＪＴＯＷＥＲ	9,100	5,050.00	45,955,000	
ビザスク	38,100	2,810.00	107,061,000	
サイバーセキュリティクラウド	1,200	5,090.00	6,108,000	
ロコガイド	3,100	4,890.00	15,159,000	
Ｓｐｅｅｅ	800	4,675.00	3,740,000	
ゼンリン	35,800	1,150.00	41,170,000	
あい　ホールディングス	28,200	1,835.00	51,747,000	
ラクト・ジャパン	13,100	3,570.00	46,767,000	
コンドーテック	56,200	1,225.00	68,845,000	
シークス	77,700	1,070.00	83,139,000	
バリュエンスホールディングス	46,800	2,031.00	95,050,800	
パルグループホールディングス	38,700	1,121.00	43,382,700	
ハローズ	11,600	4,015.00	46,574,000	
コメ兵	52,000	698.00	36,296,000	
クオールホールディングス	39,600	1,184.00	46,886,400	
ジンズホールディングス	9,400	7,840.00	73,696,000	
物語コーポレーション	9,700	10,030.00	97,291,000	
シュッピン	85,100	883.00	75,143,300	
オイシックス・ラ・大地	17,000	3,145.00	53,465,000	
ＴＯＫＹＯ　ＢＡＳＥ	61,400	364.00	22,349,600	
バルニバービ	8,900	798.00	7,102,200	
クスリのアオキホールディングス	10,300	8,900.00	91,670,000	
アニコム　ホールディングス	19,600	4,275.00	83,790,000	
スター・マイカ・ホールディングス	42,200	1,281.00	54,058,200	
ＳＲＥホールディングス	21,100	2,771.00	58,468,100	
ダイビル	58,200	1,140.00	66,348,000	
ＵＴグループ	9,100	3,355.00	30,530,500	
ＧＣＡ	59,300	644.00	38,189,200	
ツクイ	122,400	595.00	72,828,000	
アウトソーシング	93,600	944.00	88,358,400	
エン・ジャパン	21,200	3,010.00	63,812,000	
弁護士ドットコム	4,600	9,890.00	45,494,000	
日本スキー場開発	17,400	636.00	11,066,400	
ジャパンマテリアル	50,500	1,417.00	71,558,500	
ＬＩＴＡＬＩＣＯ	30,200	2,731.00	82,476,200	
ストライク	11,800	4,560.00	53,808,000	
ソラスト	67,300	1,300.00	87,490,000	
ギークス	22,400	1,232.00	27,596,800	
乃村工藝社	60,000	769.00	46,140,000	
合　計	2,608,000		4,859,775,900	

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第２　信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３　デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

Ｊリートマザーファンド（Ｍ）

貸借対照表

	2020年 9月10日現在
項目	金額（円）
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	336,895,357
投資証券	46,751,128,140
未収入金	270,493,361
未収配当金	619,478,333
流動資産合計	47,977,995,191
資産合計	47,977,995,191
負債の部	
流動負債	
未払金	258,975,605
未払解約金	49,053,867
未払利息	918
流動負債合計	308,030,390
負債合計	308,030,390
純資産の部	
元本等	
元本	16,599,509,147
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	31,070,455,654
元本等合計	47,669,964,801
純資産合計	47,669,964,801
負債純資産合計	47,977,995,191

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

	2020年 9月10日現在
１.有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券

	2020年 9月10日現在
2.収益及び費用の計上基準	移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所等における計算日又は計算日に知りうる直近の日の最終相場(最終相場のないものについては、それに準じる価額)、金融商品取引業者等の提示する価額、価格情報会社の提供する価額又は業界団体が発表する売買参考統計値等に基づいて評価しております。 受取配当金 投資証券は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

		2020年 9月10日現在
1． 計算期間の末日における受益権の総数		16,599,509,147口
2． 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額	2.8718円
	(1万口当たり純資産額)	(28,718円)

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、価格変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3.金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用リスク管理委員会及び経営会議に報告します。 内部監査部は、業務執行に係る内部管理態勢の適切性・有効性を独立した立場から検証・評価し、監査結果等を取締役会に報告するとともに、指摘事項の是正・改善状況の事後点検を行います。

2．金融商品の時価等に関する事項

	2020年 9月10日現在
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1)有価証券 売買目的有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）
元本の移動

区分	2020年 9月10日現在
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2020年 3月11日
期首元本額	17,302,716,974円
期中追加設定元本額	659,690,997円
期中一部解約元本額	1,362,898,824円
期末元本額	16,599,509,147円
期末元本額の内訳	
Ｊリートファンド	14,672,828,767円

区分	2020年 9月10日現在
３資産バランスオープン	283,691,466円
３資産バランスオープンアルファ	53,783,190円
Ｊリートアクティブファンド（１年決算型）	1,589,205,724円

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	2020年 9月10日現在
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
投資証券	△47,279,950
合計	△47,279,950

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、「Ｊリートマザーファンド（Ｍ）」の期首日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間に対応する金額であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

附属明細表

第１　有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

種類	銘　柄	券面総額	評価額(円)	備考
投資証券	サンケイリアルエステート投資法人	8,021	759,588,700	
	ＳＯＳｉＬＡ物流リート投資法人	6,015	815,634,000	
	日本アコモデーションファンド投資法人	2,497	1,543,146,000	
	ＭＣＵＢＳ　ＭｉｄＣｉｔｙ投資法人	381	28,956,000	
	森ヒルズリート投資法人	1,317	174,897,600	
	産業ファンド投資法人	4,294	770,773,000	
	アドバンス・レジデンス投資法人	1,652	512,946,000	
	ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人	6,749	1,261,388,100	
	アクティビア・プロパティーズ投資法人	4,991	1,988,913,500	
	ＧＬＰ投資法人	13,010	2,112,824,000	
	コンフォリア・レジデンシャル投資法人	3,784	1,174,932,000	

	日本プロロジスリート投資法人	4,701	1,647,700,500	
	星野リゾート・リート投資法人	130	64,090,000	
	イオンリート投資法人	126	14,641,200	
	ヒューリックリート投資法人	216	29,224,800	
	インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人	60,167	855,574,740	
	積水ハウス・リート投資法人	2,585	190,773,000	
	ケネディクス商業リート投資法人	200	43,220,000	
	ヘルスケア＆メディカル投資法人	3,410	411,928,000	
	野村不動産マスターファンド投資法人	14,219	1,882,595,600	
	ラサールロジポート投資法人	8,568	1,481,407,200	
	三井不動産ロジスティクスパーク投資法人	2,819	1,471,518,000	
	投資法人みらい	3,000	113,700,000	
	森トラスト・ホテルリート投資法人	450	48,555,000	
	三菱地所物流リート投資法人	3,101	1,302,420,000	
	ＣＲＥロジスティクスファンド投資法人	4,741	690,763,700	
	ザイマックス・リート投資法人	47	4,089,000	
	伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人	6,027	840,766,500	
	日本ビルファンド投資法人	6,297	3,897,843,000	
	ジャパンリアルエステイト投資法人	6,603	3,842,946,000	
	日本リテールファンド投資法人	12,340	1,904,062,000	
	オリックス不動産投資法人	7,451	1,148,199,100	
	日本プライムリアルティ投資法人	4,589	1,459,302,000	
	プレミア投資法人	10,771	1,291,442,900	
	東急リアル・エステート投資法人	811	111,918,000	
	グローバル・ワン不動産投資法人	10,790	1,118,923,000	
	ユナイテッド・アーバン投資法人	7,186	811,299,400	
	森トラスト総合リート投資法人	627	85,021,200	
	フロンティア不動産投資法人	3,562	1,243,138,000	
	平和不動産リート投資法人	8,476	966,264,000	
	日本ロジスティクスファンド投資法人	5,706	1,619,362,800	
	福岡リート投資法人	50	6,735,000	
	ケネディクス・オフィス投資法人	472	289,808,000	
	大和証券オフィス投資法人	385	227,920,000	
	阪急阪神リート投資法人	66	7,821,000	
	大和ハウスリート投資法人	10,342	2,745,801,000	
	ジャパン・ホテル・リート投資法人	12,176	588,100,800	
	ジャパンエクセレント投資法人	9,537	1,148,254,800	
合計		285,455	46,751,128,140	

(注)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第２　信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３　デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

２【ファンドの現況】

【３資産バランスオープンアルファ】

【純資産額計算書】

（2020年 9月30日現在）

Ⅰ　資産総額	1,598,810,240円
Ⅱ　負債総額	1,269,476円
Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	1,597,540,764円
Ⅳ　発行済口数	1,580,979,760口
Ⅴ　1口当たり純資産額（Ⅲ／Ⅳ）	1.0105円
（1万口当たり純資産額）	（10,105円）

（参考）

高金利外債マザーファンド

純資産額計算書

（2020年 9月30日現在）

Ⅰ　資産総額	19,567,083,371円
Ⅱ　負債総額	947,752円
Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	19,566,135,619円
Ⅳ　発行済口数	11,117,840,297口
Ⅴ　1口当たり純資産額（Ⅲ／Ⅳ）	1.7599円
（1万口当たり純資産額）	（17,599円）

日本株配当マザーファンド

純資産額計算書

（2020年 9月30日現在）

Ⅰ　資産総額	3,839,388,630円
Ⅱ　負債総額	3,134,957円
Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	3,836,253,673円
Ⅳ　発行済口数	1,991,313,353口
Ⅴ　1口当たり純資産額（Ⅲ／Ⅳ）	1.9265円
（1万口当たり純資産額）	（19,265円）

日本株中小型マザーファンド

純資産額計算書

（2020年 9月30日現在）

Ⅰ　資産総額	5,457,980,268円
Ⅱ　負債総額	6,069,853円
Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	5,451,910,415円
Ⅳ　発行済口数	1,506,569,857口
Ⅴ　1口当たり純資産額（Ⅲ／Ⅳ）	3.6188円
（1万口当たり純資産額）	（36,188円）

Ｊリートマザーファンド（Ｍ）

純資産額計算書

（2020年 9月30日現在）

Ⅰ　資産総額	48,384,122,811円
Ⅱ　負債総額	644,498,015円
Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）	47,739,624,796円
Ⅳ　発行済口数	16,487,720,865口
Ⅴ　1口当たり純資産額（Ⅲ／Ⅳ）	2.8955円
（1万口当たり純資産額）	（28,955円）

第４【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1)名義書換等

該当事項はありません。

(2)受益者等に対する特典

該当事項はありません。

(3)譲渡制限

該当事項はありません。

(4)振替受益権について

当ファンドの受益権は社振法の適用を受けます。

①受益証券の不発行

委託会社は、当ファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合又は当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

②受益権の譲渡

イ．受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載又は記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

ロ．上記イ．の申請のある場合には、上記イ．の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少及び譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載又は記録するものとします。ただし、上記イ．の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載又は記録が行われるよう通知するものとします。

ハ．上記イ．の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載又は記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるとき又はやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

③受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載又は記録によらなければ、委託会社及び受託会社に対抗することができません。

④受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

⑤償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載又は記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載又は記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に支払います。

⑥質権口記載又は記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載又は記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金及び償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第１【委託会社等の概況】

１【委託会社等の概況】

(1)資本金の額（2020年 9月30日現在）

資本金の額　　：20億円
発行可能株式総数　：12,000株
発行済株式総数　　：3,000株
最近5年間における資本金の額の増減：2018年10月1日に資本金を20億円に増資しています。

(2)委託会社の機構

①会社の意思決定機構

会社に取締役（監査等委員である取締役を除く。）を10名以内、監査等委員である取締役を5名以内おきます。取締役は、株主総会において選任され、又は解任されます。ただし、監査等委員である取締役は、それ以外の取締役と区別するものとします。
取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとします。
また、監査等委員以外の取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、監査等委員である取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の３分の１以上を有する株主が出席し、その議決権の３分の２以上をもって行います。
取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。
監査等委員である取締役の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。また、任期の満了前に退任した監査等委員である取締役の補欠として選任された監査等委員である取締役の任期は、退任した監査等委員である取締役の任期の満了する時までとします。
取締役会は、その決議をもって、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の中から代表取締役若干名を選定します。また、代表取締役の中から社長１名を選定し、必要あるときは、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の中から、会長、副会長、副社長、専務取締役、常務取締役各若干名を選定することができます。
取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会においてあらかじめ定めた取締役が招集し、その議長となります。当該取締役に事故あるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順位にしたがい、ほかの取締役がその職務を代行します。
取締役会を招集するには、各取締役に対して会日の3日前までに招集通知を発します。ただし、緊急の必要あるときは、この期間を短縮することができ、取締役の全員の同意があるときは、招集の手続を経ずに取締役会を開催することができます。
取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席し、出席した取締役の過半数をもって行います。

②投資運用の意思決定機構

［PLAN（計画）］

運用企画部担当役員を委員長とする運用・リスク委員会において、ファンドの運用戦略や運用スタイルなどを決定します。運用・リスク委員会で決定された運用の基本方針等に基づき、各運用部に

おいて、ファンドマネジャーが運用仕様・ガイドラインに基づき、運用の執行に関する方針を運用計画として策定します。

［DO（実行）］

各運用部のファンドマネジャーは、運用計画に沿った運用の執行、ファンドの運用状況管理を行います。

各運用部の部長等は、各ファンドマネジャーの運用実施状況を確認します。

売買発注の執行は、各運用部からの運用の実行指図に基づき、各運用部から独立したトレーディング部のトレーダーが行います。

［CHECK（検証・評価）］

運用企画部は、運用部門において各運用部から独立した立場で、毎月開催される運用・リスク委員会（委員長は運用企画部担当役員）に運用パフォーマンスに係るモニタリング状況を報告します。このモニタリング状況や討議内容は、各運用部の部長（委員会の構成員）からファンドマネジャーに速やかにフィードバックされ、ファンドの運用に反映されます。

また、運用に関するリスク管理と法令等遵守状況のモニタリングについては、運用部門から独立した運用監理部が担当します。このモニタリング結果は、毎月開催される運用・リスク委員会等に報告されます。

こうした牽制態勢のもと、PLAN－DO－CHECKのPDCサイクルによる一貫した運用プロセスにより、適切な運用体制を維持するよう努めています。

委託会社の機構は2020年12月10日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

投資信託及び投資法人に関する法律に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、金融商品取引法に定める投資助言業務等の関連する業務を行っています。

2020年9月30日現在、委託会社が運用の指図を行っている証券投資信託（マザーファンドを除きます。）は次の通りです。

	本数（本）	純資産総額（百万円）
追加型株式投資信託	523	12,894,768
追加型公社債投資信託	0	0
単位型株式投資信託	80	296,836
単位型公社債投資信託	38	268,815
合計	641	13,460,419

3【委託会社等の経理状況】

(1)　委託者である三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社（以下「委託者」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

なお、財務諸表の金額については、百万円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(2)　委託者の財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当事業年度より百万円単位で記載することに変更いたしました。

(3)　委託者は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（自　2019年4月1日　至　2020年3月31日）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

（単位：百万円）

		前事業年度 （2019年3月31日現在）		当事業年度 （2020年3月31日現在）
資産の部				
流動資産				
現金及び預金		23,830		24,869
金銭の信託		－		5,823
有価証券		2,268		－
前払費用		197		348
未収委託者報酬		6,351		7,284
未収運用受託報酬		5,525		5,842
未収収益		212		190
その他		2,261		4,624
流動資産合計		40,648		48,983
固定資産				
有形固定資産				
建物	※1	282	※1	256
器具備品	※1	564	※1	576
その他	※1	14	※1	0
有形固定資産合計		861		832
無形固定資産				
ソフトウェア		1,487		3,030
その他		7		40
無形固定資産合計		1,494		3,070
投資その他の資産				
投資有価証券		11,334		8,469
関係会社株式		4,663		5,636
繰延税金資産		141		700
その他		32		35
投資その他の資産合計		16,171		14,842
固定資産合計		18,527		18,745
資産合計		59,176		67,729

（単位：百万円）

	前事業年度 （2019年3月31日現在）	当事業年度 （2020年3月31日現在）
負債の部		
流動負債		
預り金	38	38
未払金	5,327	7,988
未払収益分配金	0	0
未払手数料	2,718	3,355
その他未払金	2,608	4,632
未払費用	178	204
未払法人税等	1,992	897
賞与引当金	132	324
その他	395	1,070
流動負債合計	8,063	10,524
固定負債		
退職給付引当金	537	600
資産除去債務	131	132
その他	0	7
固定負債合計	669	740
負債合計	8,733	11,264
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	17,239	17,239
資本剰余金合計	17,239	17,239
利益剰余金		
利益準備金	75	305
その他利益剰余金		
別途積立金	2,100	2,100
繰越利益剰余金	28,501	35,122
利益剰余金合計	30,676	37,528
株主資本合計	49,916	56,767
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	393	△587
繰延ヘッジ損益	133	284
評価・換算差額等合計	526	△302
純資産合計	50,442	56,464
負債・純資産合計	59,176	67,729

（２）【損益計算書】

（単位：百万円）

	前事業年度 （自　2018年4月1日 至　2019年3月31日）	当事業年度 （自　2019年4月1日 至　2020年3月31日）
営業収益		
委託者報酬	30,551	34,967
運用受託報酬	5,464	11,091
その他営業収益	283	500
営業収益合計	36,299	46,559
営業費用		
支払手数料	13,423	15,998
広告宣伝費	276	331
公告費	1	0
調査費	5,508	5,018
調査費	567	788
委託調査費	4,935	4,217
図書費	5	11
営業雑経費	2,315	3,434
通信費	45	52
印刷費	449	470
協会費	38	53
諸会費	5	16
情報機器関連費	1,657	2,726
その他営業雑経費	118	114
営業費用合計	21,525	24,783
一般管理費		
給料	3,931	5,756
役員報酬	161	244
給料・手当	3,425	4,962
賞与	343	549
退職給付費用	98	118
福利費	297	535
交際費	9	14
旅費交通費	141	190
租税公課	270	344
不動産賃借料	219	269
寄付金	8	7
減価償却費	152	334
業務委託費	657	864
諸経費	433	750
一般管理費合計	6,219	9,185
営業利益	8,554	12,589

（単位：百万円）

	前事業年度 （自　2018年4月1日 至　2019年3月31日）	当事業年度 （自　2019年4月1日 至　2020年3月31日）
営業外収益		
受取利息	11	15
収益分配金	8	119
投資有価証券売却益	46	483
投資有価証券償還益	0	316
為替差益	－	273
デリバティブ利益	250	666
貸倒引当金戻入	17	－
その他	5	30
営業外収益合計	340	1,906
営業外費用		
金銭の信託運用損	－	1,076
投資有価証券売却損	34	4
投資有価証券償還損	1	19
固定資産除却損	7	19
為替差損	198	－
その他	3	0
営業外費用合計	245	1,118
経常利益	8,649	13,377
特別損失		
統合関連費用	286	－
システム統合費用	49	149
特別損失合計	355	149
税引前当期純利益	8,313	13,227
法人税、住民税及び事業税	2,674	4,263
法人税等調整額	△125	△193
法人税等合計	2,549	4,070
当期純利益	5,764	9,157

（３）【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自　2018年4月1日　至　2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	300	350	350
当期変動額			
その他資本剰余金から資本金への振替	1,700	△1,700	△1,700
会社分割による増加		18,589	18,589
剰余金の配当			

当期純利益			
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			
当期変動額合計	1,700	16,889	16,889
当期末残高	2,000	17,239	17,239

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	74	2,100	22,767	24,942	25,592
当期変動額					
その他資本剰余金から資本金への振替					－
会社分割による増加					18,589
剰余金の配当	0		△30	△30	△30
当期純利益			5,764	5,764	5,764
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	0	－	5,734	5,734	24,323
当期末残高	75	2,100	28,501	30,676	49,916

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	0	－	0	25,592
当期変動額				
その他資本剰余金から資本金への振替				－
会社分割による増加				18,589
剰余金の配当				△30
当期純利益				5,764
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	393	133	526	526
当期変動額合計	393	133	526	24,850
当期末残高	393	133	526	50,442

当事業年度（自　2019年4月1日　至　2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,000	17,239	17,239
当期変動額			
その他資本剰余金から資本金への振替			
会社分割による増加			
剰余金の配当			
当期純利益			
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			

当期変動額合計	－	－	－
当期末残高	2,000	17,239	17,239

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	75	2,100	28,501	30,676	49,916
当期変動額					
その他資本剰余金から資本金への振替					－
会社分割による増加					－
剰余金の配当	230		△2,536	△2,305	△2,305
当期純利益			9,157	9,157	9,157
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	230	－	6,620	6,851	6,851
当期末残高	305	2,100	35,122	37,528	56,767

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	393	133	526	50,442
当期変動額				
その他資本剰余金から資本金への振替				－
会社分割による増加				－
剰余金の配当				△2,305
当期純利益				9,157
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△980	151	△829	△829
当期変動額合計	△980	151	△829	6,022
当期末残高	△587	284	△302	56,464

重要な会計方針

１．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

（2）その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法によっております。（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

２．デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法によっております。

３．金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法によっております。

４．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法によっております。

（2）無形固定資産

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、原則として社内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

５．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として計上しております。

６．引当金の計上基準

（1）貸倒引当金

一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

（2）賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

（3）退職給付引当金

従業員の退職に伴う退職金の支給に備えるため、当事業年度末における簡便法による退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

７．ヘッジ会計の会計処理

（1）ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

（2）ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段は為替予約、ヘッジ対象は関係会社株式及び投資有価証券であります。

（3）ヘッジ方針

自己勘定運用管理規程等に基づき、ヘッジ対象に係る為替変動リスクをヘッジしております。

（4）ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計額を比較して有効性を判定しております。

８．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

９．連結納税制度の適用

当事業年度より、連結納税制度を適用しております。

10．連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号　2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号　2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

注記事項

（貸借対照表関係）

※1有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 （2019年3月31日）		当事業年度 （2020年3月31日）	
建　　物	53	百万円	77	百万円
器具備品	351	〃	285	〃
そ の 他	3	〃	4	〃
計	408	〃	367	〃

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2018年4月1日　至 2019年3月31日）

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	3,000	－	－	3,000

２．自己株式の種類及び株式数に関する事項
該当事項はありません。

３．剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月29日 定時株主総会	普通株式	30	10,000	2018年3月31日	2018年6月29日

４．基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当金の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,305	利益剰余金	768,604	2019年3月31日	2019年6月28日

当事業年度（自 2019年4月1日　至 2020年3月31日）

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	3,000	－	－	3,000

２．自己株式の種類及び株式数に関する事項
該当事項はありません。

３．剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,305	768,604	2019年3月31日	2019年6月28日

４．基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
2020年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当金の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,662	利益剰余金	1,220,985	2020年3月31日	2020年6月29日

（リース取引関係）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（金融商品関係）

１．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、資金運用については、自社が運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を金銭の信託及び投資有価証券として保有しているほか、短期的な預金を中心とする安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブ取引については、保有する投資信託に係る将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため金銭の信託及び投資有価証券の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

これらの必要な資金については、内部留保を充てております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

未収委託者報酬については、ファンドという相手方の性質上、信用リスク及び流動性リスクは極めて低いものと考えております。また、未収運用受託報酬については、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、ファンドという相手方の性質上、信用リスク及び流動性リスクは極めて低いものと考えており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクに晒されておりますが、顧客ごとに決済期日及び残高を管理することにより回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

金銭の信託及び投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシードマネーの投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスクや信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されておりますが、それらの一部については為替予約、株価指数先物等のデリバティブ取引によりリスクの軽減を図っております。なお、為替変動リスクに係るヘッジについてはヘッジ会計（繰延ヘッジ）を適用しております。ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法等については、前述の「重要な会計方針7.ヘッジ会計の会計処理」をご参照ください。

未払金については、全て1年以内の支払期日であります。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

当社では、リスク管理に係る基本方針を「リスク管理規程」として定め、以下のとおり、リスク・カテゴリー毎に管理しております。

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権の管理については、顧客ごとに決済期日及び残高を管理し、また自己査定要領に基づき定期的に債権内容の検討を行うことにより回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

デリバティブ取引は、取引相手先として高格付けを有する金融機関に限定しております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

有価証券投資については、自己勘定運用方針にて投資限度額や投資期間等を定めており、投資後も適宜時価を把握し、保有状況を継続的に見直しております。投資信託の為替変動リスクに対しては、それらの一部について為替予約を利用してヘッジしております。また、価格変動リスクを軽減するために、株価指数先物等のデリバティブ取引を利用しております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、年度事業計画を策定し、これに基づいて必要となる資金を検討し、充足する十分な手元流動性を維持することで、流動性リスクを管理しております。

２．金融商品の時価に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）を参照ください）。

前事業年度（2019年3月31日）　（単位：百万円）

	貸借対照表計上額（*1）	時価（*1）	差額
（1）現金及び預金	23,830	23,830	－
（2）金銭の信託	－	－	－
（3）未収委託者報酬	6,351	6,351	－
（4）未収運用受託報酬	5,525	5,525	－

（5）有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	13,602	13,602	－
（6）未払金	(5,327)	(5,327)	－
（7）デリバティブ取引（*2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(0)	(0)	－
ヘッジ会計が適用されているもの	82	82	－
デリバティブ取引計	81	81	－

（*1）負債に計上されているものについては、（　　）で示しております。
（*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当事業年度（2020年3月31日）　　（単位：百万円）

	貸借対照表計上額（*1）	時価（*1）	差額
（1）現金及び預金	24,869	24,869	－
（2）金銭の信託	5,823	5,823	－
（3）未収委託者報酬	7,284	7,284	－
（4）未収運用受託報酬	5,842	5,842	－
（5）投資有価証券 その他有価証券	8,469	8,469	－
（6）未払金	(7,988)	(7,988)	－
（7）デリバティブ取引（*2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	6	6	－
ヘッジ会計が適用されているもの	(114)	(114)	－
デリバティブ取引計	(107)	(107)	－

（*1）負債に計上されているものについては、（　　）で示しております。
（*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

（注1）　金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

（1）現金及び預金
　これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（2）金銭の信託
　信託財産は、主として投資信託で構成されております。この投資信託の時価は基準価額によっております。

（3）未収委託者報酬、 及び(4)未収運用受託報酬
　これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（5）有価証券及び投資有価証券
　これらの時価について、投資信託は取引金融機関から提示された価格によっております。

（6）未払金
　これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（7）デリバティブ取引
　（デリバティブ取引関係）注記をご参照ください。

（注2）　時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

（単位:百万円）

区分	前事業年度 2019年3月31日	当事業年度 2020年3月31日
非上場株式	0	0

これについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難 と認められるため、「(5)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

（注3） 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（2019年3月31日） （単位：百万円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	23,830	－	－	－
未収委託者報酬	6,351	－	－	－
未収運用受託報酬	5,525	－	－	－
有価証券及び投資有価証券 投資信託	2,268	491	7,800	0

当事業年度（2020年3月31日） （単位：百万円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	24,869	－	－	－
未収委託者報酬	7,284	－	－	－
未収運用受託報酬	5,842	－	－	－
投資有価証券 投資信託	－	9	5,605	－

（有価証券関係）

１．子会社株式

前事業年度（2019年3月31日）

時価のある子会社株式はありません。

なお、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

（単位:百万円）

	貸借対照表計上額
子会社株式	4,663

当事業年度（2020年3月31日）

時価のある子会社株式はありません。

なお、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

（単位:百万円）

	貸借対照表計上額
子会社株式	5,636

２．その他有価証券

前事業年度（2019年3月31日） （単位：百万円）

区分	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの その他	4,405	3,432	973

小計	4,405	3,432	973
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの その他	9,196	9,602	△406
小計	9,196	9,602	△406
合計	13,602	13,035	566

当事業年度（2020年3月31日）　（単位：百万円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの その他	891	806	84
小計	891	806	84
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの その他	7,578	8,509	△931
小計	7,578	8,509	△931
合計	8,469	9,316	△846

（注）非上場株式（貸借対照表計上額0百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

３．事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度（2019年3月31日）　（単位:百万円）

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,538	46	34

当事業年度（2020年3月31日）　（単位:百万円）

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
2,358	483	4

（デリバティブ取引関係）

前事業年度（2019年3月31日）

１．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

種類	契約額等（百万円）	契約額等のうち1年超（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）

市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	887	－	3	3
	英ポンド	66	－	1	1
	カナダドル	3	－	0	0
	スイスフラン	7	－	△0	△0
	香港ドル	183	－	0	0
	ユーロ	183	－	2	2
	買建				
	米ドル	10	－	0	0
	スイスフラン	1	－	0	0
	香港ドル	0	－	0	0
	ユーロ	2	－	△0	△0
合計		1,346	－	7	7

（注）　1．上記取引については時価評価を行い、評価損益は損益計算書に計上しています。
2．時価の算定方法
取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 株式関連

種類		契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
市場取引	株価指数先物取引				
	売建	6,739	－	△8	△8
合計		6,739	－	△8	△8

（注）　1．上記取引については時価評価を行い、評価損益は損益計算書に計上しています。
2．時価の算定方法
金融商品取引所が定める清算指数によっております。

2．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
原則的処理方法	為替予約取引	有価証券 投資有価証券 子会社株式			
	売建				
	米ドル		3,432	－	13
	英ポンド		2,575	－	50
	カナダドル		40	－	0
	スイスフラン		34	－	△0
	香港ドル		566	－	2
	人民元		1,725	－	9
	ユーロ		262	－	6
	買建				
	ユーロ		6	－	△0
合計			8,643	－	82

（注）　1．時価の算定方法
取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当事業年度（2020年3月31日）

1．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

種類		契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	1,443	－	△23	△23
	英ポンド	79	－	△1	△1
	カナダドル	15	－	△0	△0
	スイスフラン	26	－	△0	△0
	香港ドル	247	－	△4	△4
	人民元	18	－	△0	△0
	ユーロ	223	－	△2	△2
合計		2,055	－	△32	△32

（注）　1．上記取引については時価評価を行い、評価損益は損益計算書に計上しています。
　　2．時価の算定方法
　　取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 株式関連

種類		契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引	株価指数先物取引 売建	8,412	－	358	358
合計		8,412	－	358	358

（注）　1．上記取引については時価評価を行い、評価損益は損益計算書に計上しています。
　　2．時価の算定方法
　　金融商品取引所が定める清算指数によっております。

2．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ 会計の方法	デリバティブ取引 の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建	投資有価証券 子会社株式			
	米ドル		2,819	－	△44
	英ポンド		2,660	－	△67
	カナダドル		6	－	△0
	スイスフラン		35	－	△0
	香港ドル		71	－	△1
	ユーロ		72	－	△0
合計			5,666	－	△114

（注）　1．時価の算定方法
　　取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

（退職給付関係）

1．採用している退職給付制度の概要
　　当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を、また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を採用しております。

２．確定給付制度

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

（単位：百万円）

	前事業年度 （自　2018年4月1日 至　2019年3月31日）	当事業年度 （自　2019年4月1日 至　2020年3月31日）
退職給付債務の期首残高	496	537
退職給付費用	79	74
退職給付の支払額	△38	△11
退職給付債務の期末残高	537	600

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

（単位：百万円）

	前事業年度 （自　2018年4月1日 至　2019年3月31日）	当事業年度 （自　2019年4月1日 至　2020年3月31日）
非積立型制度の退職給付債務	537	600
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	537	600
退職給付引当金	537	600
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	537	600

（3）退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用　前事業年度79百万円　　当事業年度74百万円

３．確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度19百万円、当事業年度44百万円であります。

４．退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社は簡便法を採用しておりますので、基礎率等については、記載しておりません。

（税効果会計関係）

１．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 （2019年3月31日）		当事業年度 （2020年3月31日）	
繰延税金資産				
未払事業税	125	百万円	168	百万円
賞与引当金損金算入限度超過額	40	〃	99	〃
退職給付引当金損金算入限度超過額	164	〃	183	〃
有価証券評価差額	―		259	〃
その他	82	〃	151	〃
繰延税金資産 合計	413	〃	862	〃
繰延税金負債				
有価証券評価差額	△173	〃	―	
繰延ヘッジ損益	△58	〃	△125	〃
その他	△38	〃	△35	〃
繰延税金負債 合計	△271	〃	△161	〃
繰延税金資産の純額	141	〃	700	〃

２．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

（資産除去債務関係）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（セグメント情報等）

［セグメント情報］

当社は資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

［関連情報］

１．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

（1）営業収益

内国籍投資信託又は本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

３．主要な顧客ごとの情報

前事業年度（自 2018年4月1日　至 2019年3月31日）

顧客の名称	営業収益
三井住友信託銀行株式会社	4,679百万円

当事業年度（自 2019年4月1日　至 2020年3月31日）

顧客の名称	営業収益
三井住友信託銀行株式会社	9,534百万円

［報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報］

該当事項はありません。

［報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報］

該当事項はありません。

［報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報］

該当事項はありません。

（持分法損益等）

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

１．関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者の取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（イ）財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（ウ）財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前事業年度（自 2018年4月1日　至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
親会社の子会社	三井住友信託銀行㈱	東京都千代田区	342,037	信託業務及び銀行業務	―	営業上の取引役員の兼任	運用受託報酬	4,540	未収運用受託報酬	4,903
							投信販売代行手数料等	9,564	未払手数料	1,774
							投資助言費用	3,357	その他未払金	182
							吸収分割による承継 (承継資産合計) うち、投資有価証券 うち、関係会社株式 (承継負債合計) (差引純資産) (分割対価)	 18,603 13,907 4,663 13 18,589 無対価	―	―

（注）1．上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

① 運用受託報酬

各運用受託案件について、それぞれ合理的な水準にて助言料率を決定しております。

② 投信販売代行手数料等

ファンド毎の手数料率については、一般取引先に対する取引条件と同様に決定されております。

③ 投資助言費用

各助言案件について、それぞれ合理的な水準にて助言料率を決定しております。

④ 吸収分割

共通支配下の取引に該当するため、承継資産及び承継負債は、分割会社の適正な帳簿価額によって引き継いでおります。また、当該会社分割は、無対価取引であるため、差引純資産と同額のその他資本剰余金を増額しております。

当事業年度（自 2019年4月1日　至 2020年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
親会社の子会社	三井住友信託銀行㈱	東京都千代田区	342,037	信託業務及び銀行業務	―	営業上の取引役員の兼任	運用受託報酬	9,252	未収運用受託報酬	5,176
							投信販売代行手数料等	9,656	未払手数料	1,737

（注）1．上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

① 運用受託報酬

各運用受託案件について、それぞれ合理的な水準にて助言料率を決定しております。

② 投信販売代行手数料等

ファンド毎の手数料率については、一般取引先に対する取引条件と同様に決定されております。

（エ）財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

該当事項はありません。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

前事業年度（2019年3月31日）

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社（東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場）

当事業年度（2020年3月31日）
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社（東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場）

（１株当たり情報）

	前事業年度 （自　2018年4月1日 至　2019年3月31日）	当事業年度 （自　2019年4月1日 至　2020年3月31日）
1株当たり純資産額	16,814,137円07銭	18,821,541円72銭
1株当たり当期純利益金額	1,921,511円21銭	3,052,463円23銭

（注）１．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
２．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自　2018年4月1日 至　2019年3月31日）	当事業年度 （自　2019年4月1日 至　2020年3月31日）
当期純利益	5,764百万円	9,157百万円
普通株主に帰属しない金額	―	―
普通株式に係る当期純利益	5,764百万円	9,157百万円
普通株式の期中平均株式数	3,000株	3,000株

４【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

(1)自己又はその役員との取引

自己又はその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

(2)運用財産相互間の取引

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

(3)通常の取引条件と異なる条件での親法人等又は子法人等との取引

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

(4)親法人等又は子法人等の利益を図るためにする不必要な取引

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこ

と。

(5)その他親法人等又は子法人等が関与する不適切な行為

上記(3)及び(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1)定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他の重要事項

2020年12月10日現在、訴訟事件その他委託会社及びファンドに重要な影響を及ぼした事実及び重要な影響を及ぼすことが予想される事実は生じておりません。

第２【その他の関係法人の概況】

１【名称、資本金の額及び事業の内容】

（１）受託会社

①名称　　：三井住友信託銀行株式会社

②資本金の額：342,037百万円（2020年3月末日現在）

③事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

（２）販売会社

名称	資本金の額（百万円） （2020年3月末日現在）	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社	342,037	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
ＳＭＢＣ日興証券株式会社	10,000	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社ＳＢＩ証券	48,323	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
楽天証券株式会社	7,495	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
東海東京証券株式会社	6,000	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
松井証券株式会社	11,945	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

２【関係業務の概要】

(1)受託会社

当ファンドの受託会社として、投資信託財産の保管・管理等を行います。

(2)販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金・償還金及び一部解約金の支払い、収益分配金の再投資、運用報告書の交付並びに口座管理機関としての業務等を行います。

3【資本関係】

(1)受託会社

該当事項はありません。

(2)販売会社

該当事項はありません。

(参考)再信託受託会社

①名称　　：株式会社日本カストディ銀行
②設立年月日　：2000年6月20日
③資本金の額　：51,000百万円（2020年7月27日現在）
④事業の内容　：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
⑤再信託の目的：原信託契約に係る信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（株式会社日本カストディ銀行）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2020年 3月30日	臨時報告書
2020年 5月28日	臨時報告書
2020年 6月10日	有価証券届出書
2020年 6月10日	有価証券報告書
2020年 7月28日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

2020年６月２日

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
　取締役会　御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤　澤　　孝　　印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	竹　内　知　明　　印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社の2019年４月１日から2020年３月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社の2020年３月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

２．ＸＢＲＬデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年11月10日

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
取　　締　　役　　会　　御中

有限責任監査法人　ト　ー　マ　ツ
東　　京　　事　　務　　所

指定有限責任社員
業務執行社員　　公認会計士　　中島紀子　　印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている３資産バランスオープンアルファの2020年3月11日から2020年9月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、３資産バランスオープンアルファの2020年9月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
２．ＸＢＲＬデータは監査の対象には含まれていません。